

# 福岡市方言の文末詞「バイ」「タイ」の 福岡部若年層における使用実態と代替形式について

高 山 彩

## 序論

九州地方の、特に肥筑地方において用いられる文末詞「バイ」および「タイ」は、福岡市においても未だ頻繁に使用されている。そのような中で、福岡市（福岡県）の「バイ」及び「タイ」に関する先行研究はいくつもあるが、詳細に論じてあるものは非常に少ない。また、福岡部<sup>(注1)</sup>の若年層<sup>(注2)</sup>において、特に「バイ」が使用されている場面を耳にすることはほぼ無いように感じられるが、福岡市の若年層に特化した「バイ」「タイ」の使用実態についての先行研究は、管見の限りなされていない。さらに、先行研究は、福岡市のうちの博多部に限定したものが多く、博多部を除くその他の地域の、若年層を対象とする調査は意義のあるものであると考える。

本稿では、福岡市方言の文末詞「バイ」「タイ」の福岡部の若年層における使用実態の調査を行った結果から、「バイ」はもはや廃語と化しており、「タイ」の使用も非常に限定されていることを示す。さらに、先行研究で「バイ」と「タイ」の代わりに用いられた代替形式についても論じる。

以下では、まず先行研究より、「バイ」「タイ」の意味機能を整理する。そして、「バイ」「タイ」の調査項目を設定する。普通体に後接する「バイ」の調査結果、普通体に後接する「タイ」の調査結果・考察、丁寧体に後接する「バイ」「タイ」の調査結果を順に示し、普通体・丁寧体に後接する「バイ」「タイ」に関するまとめを行う。その後、代替形式に関する記述を行い、本稿全体のまとめを行う。

## 1. 先行研究とバイ・タイの意味機能

### 1.1. 先行研究

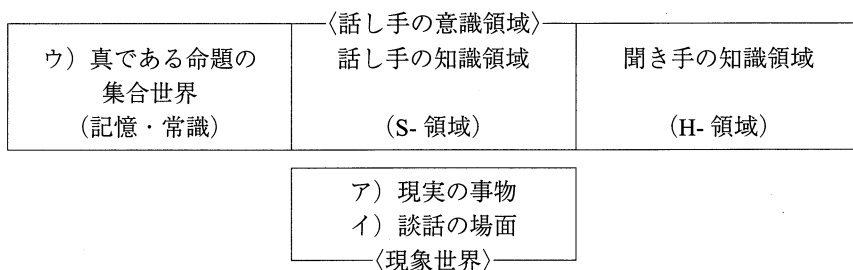
まず、「バイ」「タイ」の意味機能に関する先行研究をみていきたい。福岡市（福岡県）における文末詞「バイ」及び「タイ」の詳細な意味記述を行っている先行研究は、神部（1967）、岡野（1991）、坪内（1995、2001）、平川（2008）

などがあげられる。神部（1967）と岡野（1991）が主に「バイ」「タイ」の意味機能に関して記述しているのに対し、坪内（1995、2001）平川（2008）では、タイの語用論的意味も含め、より詳細な記述を行っている（坪内（2001）はタイのみの記述）。

本稿の調査では、バイ・タイが福岡部若年層に使用されるのは如何なる場合かを知ること重点を置いたため、詳細に項目を設定する必要があり、バイ・タイに関して、最も詳細に記述している坪内（1995）を特に参考にした。

坪内（1995）では、知識の所在と知識状態の推移という観点から「バイ」と「タイ」の機能の記述を行っている。「バイ」と「タイ」の使い分けを、外界の現象を話し手が一旦捉えた上で、それを相手にどう伝えるか、或いはどう送り出すのか、という発話態度に関わるレベルのものであるとし、解釈モデルを設定して、以下のように記述している。

図 1



- ・ S-領域…入ってきた情報を整理してある知識状態から次の知識状態へと移るための作業的領域（話し手の意識の中で「今現在」を認識できる領域）であり、実際に話し手が「Pという情報を知っている」旨を述べる事が出来るためには、このS-領域にア) イ) ウ) のいずれかのスペースからPを転送してこななければならない。
- ・ H-領域…話し手が想定した聞き手の知識領域の中でも、談話中に活性化されていると話し手が想定している部分  
 ※実際の聞き手の中の知識とは区別される。
- ・ ア) 現実の事物 例：雨が降っている状況から直接得た「雨が降っている」という知識は真である
- ・ イ) 談話の場面での推論の場（以下、本稿では推論の場と表記する）

・ウ) 記憶・常識…直接経験して得た記憶や話し手を取り巻く世界の常識、即ち「話し手が真であると見なす事項の集合」

※ウ) は S-領域への知識の転送元のうちの、ア) イ) 以外の場合。ア) イ) によって知識を獲得してからある時間が経ったと見なされるとその知識は「ウ) 記憶・常識世界」の中に入れられる。

バイ：S-領域に獲得した知識 P を、それがまだ存在しない H-領域に書き込む操作をしていることを示す。

タイ：S-領域内の知識 P と記憶・常識内の P' とをリンクさせているという知識 P<sub>meta</sub> を H-領域に書き込む操作をしていることを示す。

(坪内 (1995) p.99, 1.27 より引用)

話し手は、ア) 現実の事物 イ) 推論の場 ウ) 記憶・常識 から新たな知識 P を得る。

また、タイの持つ語用論的意味に以下のものを挙げている。

○ H-領域にない知識の場合

- a. 断言する。相手にうむを言わせない語気を持つ。相手の推論を停止させる。
- b. 相手をなだめる、言いきかせる。
- c. 相手を突き放して、見放したような言い方をする。
- d. 必要とされる事実のみを提示し、それ以外の部分には敢えて言及しない。
- e. 暫定的承認をする。
- f. 発言権は維持したまま、前提を構成していく。
- g. 忘れていたことを思い出す。

○ H-領域に存在する知識の場合

- h. 断言する。相手にうむを言わせない語気を持つ。
- i. その場の推論によって導出した知識について、相手の賛同を期待する。
- j. 「当たり前である、前提である」ということに気づく。

そして、平川 (2008) での以下の記述も挙げておきたい。平川 (2008) では、「タイ」が「バイ」と共通する新規情報を提示する機能に加えて、話し手が自己の知識や記憶に確認をとるという機能が付加されているために、聞き手にとって

の新規情報を提示する場合でも、話し手にとっても同様に新規情報である全くの新発見である場合、以下の〈1〉のように、バイは生起できてもタイは生起できないとしている。

〈1〉 あっ、今日の先輩は髪を染めている {バイ / \*タイ}。かっこいい！

また、話し手が自分自身に対して用いる独話のような場合には、同じその場の発見でも、話し手の側に予想や予測が無い全くの新発見の場合と、失念していたことを思い出したり気づいたりした場合とで、〈2〉、〈3〉のようにバイとタイとが使い分けられるとしている。

〈2〉 (準備に時間がかかりすぎ、時計を見ると出発予定より大幅に遅れている)  
おっ、こりゃいかん {バイ / \*タイ}

〈3〉 あっ、そう {\*バイ / タイ}。今日は木曜 {\*バイ / タイ}。忘れてた！

## 1.2. バイとタイの意味機能

先行研究をもとに、「バイ」及び「タイ」の意味機能について簡潔に、以下のようにまとめる（参考にした先行研究を定義の後に記述している）。

### バイ

- ・主情性が強く、話し手個人の、特定の認知・判断に基づく訴えの表現であり、一種の「自己主張」性がある 神部 (1967)、岡野 (1991)
- ・聞き手にとっての新規情報や既存情報を聞き手に提示し、認識させるという機能を持つ 坪内 (1995) 平川 (2008)

### タイ

- ・直接聞き手の関心の寄せられた事実、さらには、一般的、客観的な理の存する事実として認められたところに成立するもの 神部 (1967)、平川 (2008)
- ・聞き手にとっての新規情報や既存情報を、自己の記憶・常識・知識に裏づけた（照会した）上で提示する機能を持つ 坪内 (1995)、平川 (2008)

なお、このバイとタイの機能が自分に対して用いられると、独り言として表れる場合がある。

「タイ」が正当性を裏付けて情報を提示することは、神部(1967)、岡野(1991)、坪内(1995)、平川(2008)で共通して述べられているが、坪内(2001)で記述されている「タイ」の機能は、これらと考え方が違うため、本稿での「タイ」の機能には含めなかった。

また、坪内(1995)と平川(2008)は、「タイ」が聞き手に対して用いられる場合、聞き手にとっての新規情報にしか用いることができないとするのか、既存情報であっても用いることができるとするのかで主張が異なっている。例えば、坪内(1995)で聞き手に対しての既存情報として提示されていると捉えているが、平川(2008)では、聞き手に対して既存情報を提示しているのではなく、自分自身に対して用いられていると捉えているものがある。これらは、捉え方の違いによるものであり、坪内(1995)で数多く提示されている「タイ」の語用論的意味そのものを、平川(2008)が否定しているわけではない。なお、本稿では、「聞き手が全く知らない情報」を聞き手にとっての新規情報、「本当は知っているはずだが、一時的に認識できていない情報」・「談話中に認識できている情報」を聞き手にとっての既存情報としている<sup>(注3)</sup>。そのため、バイが示し得る既存情報は、正確には「本当は知っているはずだが、一時的に認識できていない情報」のみとなる。

タイの多様な語用論的意味に関しては、本稿では、どの意味区分が正しいかではなく、使用実態のデータを広く収集することを目的とするため、先行研究で取り上げられている用法を重なりが無い限り、広く参考にする。

また、先行研究中では指摘が見られなかった敬語との併用という視点も必要であると考え、丁寧語に後接する場合を調査する(それ以外に関して、今回は調査できていない)。

## 2. 調査

本調査は、福岡部若年層におけるバイ・タイの使用実態を把握することを目的とする。また、タイに関しては、特にどのような語用論的意味で用いられているか詳細に把握することも目的とし、先行研究から、バイ・タイが担うと思われる項目を詳細に設定して調査を行う。

## 2.1. 調査項目

「(基本的な意味機能に関して) 話し手の情報獲得源」、「(聞き手にとっての) 情報の新旧」、「聞き手を必要とするか否か」、「タイの基本的な機能から派生する多様な語用論的意味」、「丁寧語との併用」の5つを重点とし、先行研究を参考に、バイ・タイがそれぞれ用いられるような調査項目を設定した<sup>(注4)</sup>。

以後、[大カッコ] で示された番号は、[1] ~ [11]・[36] ~ [39] はバイ、[12] ~ [35]・[40] ~ [43] はタイの調査項目である。

### バイ

#### 〈聞き手を必要とする場合〉

##### ●聞き手にとっての新規情報

… (話し手の情報獲得源) [1] 現実の事物、[2] 推論の場、[3] 記憶、  
[4] 常識

##### ●聞き手にとっての既存情報

… (話し手の情報獲得源) [5] 現実の事物、[6] 推論の場、[7] 記憶、  
[8] 常識

#### 〈聞き手を必要としない場合〉

・過去の状況の説明として独り言のように用いられる場合

… [9] 過去の状況で相手が存在する場合、  
[10] 過去の状況で完全な独り言である場合

・[11] 独り言のように用いられる場合

### タイ

#### 〈聞き手を必要とする場合〉

##### ●聞き手にとっての新規情報

・基本的な意味機能

… (話し手の情報獲得源) [12] 現実の事物、[13] 推論の場、[14] 記憶、  
[15] 常識

・派生する意味機能…

[16] 断言する・相手にうむを言わせない語気を持つ

[17] なだめる

[18] 言いきかせる

[19] 突き放し・見放し

- [20] 必要とされる事実のみを提示し、それ以外の部分には取返して言及しない
- [21] 暫定的承認
- [22] 乗り気ではないままの意志の変更
- [23] 前提構成
- [24] 単なる返答・単に話題を進行させる
- [25] 思い出し

●聞き手にとっての既存情報

・基本的な意味機能

…(話し手の情報獲得源) [26] 現実の事物、[27] 推論の場、[28] 記憶、  
[29] 常識

・派生する意味機能…

[30] 断言する・相手にうむを言わせない語気を持つ

[31] その場の推論によって導出した知識について、相手の賛同を期待する

[32] 「当たり前である、前提である」ということに気づく

[33] 気づかせる・思い出させる

＜聞き手を必要としない場合＞

・[34] 思い出し

・[35] 予想・想像していた事態との不一致・意外性

丁寧体への後接

・バイ… [36] です、[37] でした、[38] ます、[39] ました

・タイ… [40] です、[41] でした、[42] ます、[43] ました

2.2. 調査方法

本調査では、先に設定した、バイ 15 項目(普通体の後接するもの:11 項目…[1] ~ [11]、丁寧体の後接するもの:4 項目… [36] ~ [39])、タイ 28 項目(普通体の後接するもの:24 項目… [12] ~ [35]、丁寧体の後接するもの:4 項目… [40] ~ [43])に、それぞれ、

(い) 用言に後接するもの

例：(部屋を散らかしたまま、片づけようとしぬい弟に対して)

あなた「いつもそんなだから、母さんに怒られるんだよ」

予想される方言形→「いつもそんなんやけん、母さんに怒られるったい」

(ろ) 体言に後接するもの

例：(いくつになっても我儘ばかり言う弟に対して)

あなた「そんなだから、いつまでたっても子供なんだよ」

予想される方言形→「そんなんやけん、いつまでたっても子供ったい」

の2問ずつを設定した。また、「ます」([38]、[42])「ました」([39]、[43])は体言に後接できないため、代わりに、

(は) ヨルもしくはトルに後接しないもの

例：(学校で、知らない人にトイレはどこにあるのかを尋ねられて)

あなた「トイレは、この廊下の奥を右に曲がった先にありますよ」

予想される方言形→「トイレは、この廊下の奥を右に曲がった先にあります  
ばい」

(に) ヨルもしくはトルに接続するもの

例：(今は大学に行っているだけなのか、と叔父に聞かれて)

叔父「今行っとるのは大学だけね？」

あなた「アルバイトもしていますよ」

予想される方言形→「アルバイトもしとりますばい」

の2問<sup>(注5)</sup>を設定した。更に、カモフラージュのための質問文14問を加え、計100問を作成し、A～Kの11名のインフォーマントに回答してもらった<sup>(注6)</sup>。

なお、回答形式は標準語で提示した文の内容を、インフォーマント自身が普段会話するように発話するならば、どのように表現するのか、自由に書き換えてもらう形式をとった。以下、(小カッコ)で示す番号は、附録1に沿った設問番号を指す<sup>(注7)</sup>。そのため、順不同となっている。本文ではバイ・タイが用いられる該当箇所だけに、下線を引いている。

調査を行ったインフォーマントは、福岡部に在住し、言語形成期のほとんどを福岡部で過ごした若年層(19～29歳)であり、必ずしも生え抜きではない。



インフォーマントの情報は以下のとおりである。

表1 インフォーマント一覧

インフォーマント	性別	年齢	居住歴
A	男性	24歳	0～5歳：熊本県菊池郡菊陽町大字津、5～24歳：福岡県福岡市南区大橋
B	男性	20歳	0歳：鹿児島県鹿児島市、0～20歳：福岡県福岡市南区横手
C	女性	22歳	0～22歳：福岡県福岡市南区若久
D	女性	22歳	0～5歳：福岡県福岡市南区高宮、6～15歳：福岡県福岡市南区筑紫丘、16～18歳：福岡県福岡市南区大橋、19～22歳：福岡県福岡市南区五十川
E	女性	21歳	0～5歳：福岡県筑紫郡那珂川町、5～21歳：福岡県福岡市南区横手
F	女性	22歳	0～2歳：北九州市戸畑区、2～18歳：福岡県福岡市早良区城西、18～22歳：京都府京都市下京区五条烏丸町境川、22歳～：福岡県福岡市早良区城西
G	男性	19歳	0～5歳：福岡県福岡市南区大橋、6～8歳：長崎県対馬市厳原町久田、8～19歳：福岡県福岡市南区横手
H	男性	22歳	0～2歳：鹿児島県、2～22歳：福岡県福岡市南区的場
I	男性	29歳	0～3歳：福岡県大牟田市吉野、3～5歳：福岡県福岡市南区屋形原、5～22歳：福岡県福岡市南区長丘、22～29歳：福岡県福岡市南区那珂川
J	女性	25歳	0～3歳：鹿児島県始良市始良町、3～25歳：福岡県福岡市西区今宿
K	女性	22歳	0～22歳：福岡市早良区南庄

### 3. 普通体に後接するバイ

今回の調査において、バイを用いた回答は一切なかった。また、「[[11] 独り言のように用いられる場合」で、用言に後接する(21)ではC、体言に後接する(22)ではCとFの2名にタイの使用が見られた。

調査に用いた設問は、表1で示したインフォーマントの他に、他地域若年層の者1名、福岡部壮年層の者1名、福岡部中年層の者1名にも回答してもらっている<sup>(注8)</sup>。その結果、福岡部の2名では、(普通体に後接するバイの設問全体の約45.5%で)バイの使用がみられた。これは、今回の調査に用いた設問が適正でなかったために、バイが出なかったというわけではなく、福岡市福岡部の若年層がそもそもバイを用いないために、このような結果になったと言える。つまり、世代差である。

今回の調査結果を見る限り、福岡市福岡部の若年層において、バイは既に廃語と化していると言える。

#### 4. 普通体に後接するタイ

##### 4.1. 調査結果

今回の調査において、タイを用いた回答は見られたものの、用いられた項目は非常に限られており、回答に1回でもタイを用いたインフォーマントは、11名中6名(C,D,E,F,J,K)と約半数であった。

まず、こちらがタイの回答を意図した設問（以下<タイ>と表記する、同様にバイの回答を意図した設問は<バイ>と表記する）で、インフォーマントからの回答にタイが用いられたのは以下の項目である。“→”の先に人数が書かれている場合は、その設問の回答にタイを用いたインフォーマントが11名中何名であったかを指す。また、(小カッコ)内のアルファベットは、その回答をしたインフォーマントを指す。

##### ＜聞き手を必要とする場合＞

##### ●聞き手にとっての新規情報

[16] 断言する・相手にうむを言わせない語気を持つ

(31) (怒っていることを分からせるために、わざと弟を無視している時に)

弟 「何で無視すると？」

あなた「怒っているんだよ!」

→怒っとるったい! (い) 1人 (C)

[19] 突き放し・見放し

(37) (部屋を散らかしたまま、片づけようもしない弟に対して)

あなた「いつもそんなだから、母さんに怒られるんだよ。知らないからね!」

→怒られるったい (い) 1人 (C)

(38) (いくつになっても我儘ばかり言う弟に対して)

あなた「そんなだから、いつまでたっても子供なんだよ。もうあんた言うことは聞かないからね」

→子供ったい (ろ) 1人 (D)

[23] 前提構成

(45) 後 (今日あった出来事を家族に話そうとして)

あなた「今日太郎と遊んでたんだ、そしたらたまたま高校の頃の友達にあったんだ、それで……」

→会ったたい? (い) 1人 (C)

●聞き手にとっての既存情報

基本的な意味機能

[27] 話し手の情報獲得源：推論の場

(53) (今朝学校に遅刻してきた友人と話をしながら)

友人 「駅に着いてから英語の提出課題忘れたのに気づいてさあ……。

いけるかなあ、と思って取りに戻ったんよ。そしたら……」

あなた「間に合わなかったんだね」

→間に合わなかったたいね (い) 1人 (C)

派生する意味機能

[31] その場の推論によって導出した知識について、相手の賛同を期待する

(61) (現在大学1年生の従姉弟が、小学2年生の頃からダンスを続けていると母から聞いて)

あなた「小2からってことは、もう11年も続けてるんだ?」

→続けとるったいね～ (C)

→続けとうったい? (J)

→続けとうったい! (K)

→しよるったい (F)

(い) 4人 (C,F,J,K)

◀聞き手を必要としない場合▶

[35] 予想・想像していた事態との不一致・意外性

(69) (普段絵は描かないと言っていたので、あまり上手くないと思っていた友人が、思いの外上手な絵が描けているのを見て)

あなた「おお! 絵描けるんだ!すごいじゃない!」

→描けるったいね! (い) 1人 (C)

(70) (高校野球の決勝戦で、勝つと思っていたなかった方の高校が優勝したと聞いて)

あなた「勝ったの佐賀北高校なんだ!?」

→佐賀北高校ったい!?(ろ) 1人 (J)

ただし、タイの聞き手にとっての新規情報・既存情報の基本的な意味機能の項目（[12]～[15]、[26]～[29]）は、パイと同様に、情報獲得源をはっきりさせた設問を作るために設けた項目であり、これらの項目も、多様なタイの語用論的意味の1つに分類することができる場合がある。例えば、(53)は、「[31]その場の推論によって導出した知識について、相手の賛同を期待する」に分類することができるだろう（以下、タイの考察にあたっては、(53)の結果は[31]に含めるが、(53)を回答したCは[31]（61）においてもタイを用いているため、使用しているインフォーマントの人数に影響はない）。そのため、実質的には5項目（[16]、[19]、[23]、[31]、[35]）でタイの使用がみられたということになる。

また、これらに加えて、設問で意図していなかった箇所でもタイの回答が見られた。それは以下の文である。

(17) (友人に昨日の話をしながら)

あなた「昨日、ファミレスでテスト勉強しようということになったんだ、でも暑かったから、まずアイスなどを食べようということになったんだ、 → (い) なったったい？ (C)、なったったい (E) それでしばらく喋っていたらいつの間にかすごく時間が過ぎていて、このままじゃ勉強する時間が無くなるよ！ってことになって……」

(18) (あなたは友人の太郎・次郎と同じ学科に所属している。家族に太郎の話をしながら)

あなた「先週、必修の授業に太郎来てなくてさ。次郎は心配していたけれど、前にも一度、別の講義で寝坊してそのまま来なかったことがあったとも言ってたから、 → (い) 来なかったことあるったい (F) それはたぶんズル休みだよってことになって、気にしていなかったんだよ。でも今日になって聞いた話だと、なんか先週から入院してるらしくてさ……」

(19) (友人に昨日の話をしながら)

あなた「昨日、友達と買い物に行ったんだ、そうしたら帰りについてに

→ (い) 行つたつたい (F)

飲みいこうということになったんだ、つい飲みすぎてしまったのだけれど、もう帰ろうって言い出した時に財布を見たらお金がギリギリで、これじゃあバスに乗れないじゃない！って思つて…」

(20) (友人に、今朝の大変だった話をしながら)

あなた「今日、家を出た後で財布忘れたのに気が付いて、それで取りに帰ろうとも思つただけど、定期忘れてなかったからいいやつて思つてたら、

→ (い) 思つたつたい (F)

駅に着いたところで、『定期の更新日って今日だ！』って気づいて……」

これらはすべて、用言に接続しており、「[23] 前提構成」である。回答者は、C、E、Fの3名である。これらの例は、伴うイントネーションが非下降である点も特徴である<sup>(注9)</sup>。

また、インフォーマントに指定箇所を自由に書き換えてもらう方式をとつたために、文意が元の文と全く違うものになってしまった(以下、斜体で示す)回答の中にも、タイの使用がみられた。

(26) (昨日エアコンからゴキブリが出てきたが、原因がわからないという友人の話聞きながら)

友人「昨日突然エアコンからゴキブリが出てきたとって！意味わからん！どこから入ったとかいな……」

あなた「エアコンからなら、室外機のホースだよ」

→まじで！エアコンからゴキブリって出てくるつたい (い) 1人 (F)

これは、「[35] 予想・想像していた事態との不一致・意外性」である。また、パイの使用を想定した設問で、タイが用いられたものもあった。

(21) (太郎が修学旅行の日に登校してきていないことに気づいて)

あなた「あれ、一番張り切つたのに太郎おらんやん。どうしたと？」

次郎 「昨日帰る時、熱があるとかいいよったんよね～。絶対行くって言いよったけど、インフルエンザになったってさ」

あなた「ウイルスに負けたんだな」

→負けたったいね (い) 1名 (C)

これは、「[31] その場の推論によって導出した知識について、相手の賛同を期待する」であろう。

(22) (朝起きると天候が悪く、窓の外を見ながら)

あなた「うわあ、風強いなあ……学校行きたくないなあ」

母 「さっき警報出たけん今日休みってお知らせきとったよ」

あなた「今日休みなんだな。行かないといけないと思ってたけど」

→休みったいね (ろ) 2名 (C,F)

「行かないといけないと思ってたけど」という文が続くことから、これは「[35] 予想・想像していた事態との不一致・意外性」に分類されるだろう。

こちらが意図せず用いられたタイはすべて、<タイ>でタイが用いられた5項目のうちに入る。改めて、タイの回答が見られた項目を挙げると以下のとおりである。

(聞き手にとっての新規情報)

[16] 断言する・相手にうむを言わせない語気を持つ…1人 (C)

[19] 突き放し・見放し…2人 (C,D)

[23] 前提構成…3人 (C,E,F)

(聞き手にとっての既存情報)

[31] その場の推論によって導出した知識について、相手の賛同を期待する…4人 (C,F,J,K)

(聞き手を必要としない場合)

[35] 予想・想像していた事態との不一致・意外性…3人 (C,F,J)

タイを用いたインフォーマントの数を見ると、特に(聞き手にとっての既存情報)「[31] その場の推論によって導出した知識について、相手の賛同を期待する」は、福岡市福岡部の若年層において、タイが最も用いられる場面である

と言えよう。タイの「情報を自己の記憶・常識・知識に照会して提示する」という意味機能がはっきりと表れながらも、理路整然とただ示すのではなく、相手へ反応を求める応用的な側面もつ語用論的意味であり、使いやすいからだろうか。

また、回答にタイが用いられている例文を見てみると、(26),(31),(37),(38),(61),(69),(70)は、話し手が強い怒りや驚き、呆れなどを感じており、感情的になっている文である。

一方、(17),(18),(19),(20),(21),(22),(45)後、(53)では、前者ほど話し手は感情的になっていない。「主情性が強く、話し手個人の、特定の認知・判断に基づく訴えの表現」であるのはバイであり、今回の調査でのタイの表れ方は、一見、先行研究にそぐわない結果に見える。しかし、バイの意味機能とタイの意味機能の違いは、提示する情報の確実性である。それだけ強い示し方をすることとは、タイを用いた文も、バイ同様にもしくはより感情的になっている場合もあるのである。

## 4.2. 考察

### 4.2.1. 聞き手の必要性

聞き手の必要性の点でみると、5項目中4項目(6名が回答)が聞き手を必要とするものであった。聞き手の必要性に関して、バイが基本的に聞き手を必要とするという内省は、筆者<sup>(注9)</sup>を含めた数名の福岡市出身者に共通した認識であったが、タイに関してはさほどそのような認識はなかった。実際に今回の調査でも、質問項目も聞き手を必要とする<タイ>は22項目設定していたのに対し、聞き手を必要としないものは2項目のみの設定であったものの、1項目でタイが表れ、意図しなかった設問を含めた3問で、計3名のインフォーマントが回答していた。

ただし、いずれの設問にも、聞き手が存在しているため、完全な独り言とは言えない状況である。特に(69)では、Cは「ツタイネ」と「ネ」を用いていることから、聞き手ありきの回答をしている。また、聞き手を必要としない場合もあるのであれば、完全な独り言である「[34] 思いだし」の項目でもタイが用いられそうだが、タイを用いた回答は全く見られない。全体を通して、最も広い場面でタイを回答しているCが聞き手ありきの回答をしたことも気にかかる。

以上より、聞き手の必要性がタイの使用に全く関わらないとは言い切れない

と考える。福岡市福岡部の若年層において、聞き手を必要とする（相手のいる）場面でよりタイが使われやすい傾向はあるのではないだろうか。

#### 4.2.2. 接続

回答にタイが使用された設問は 15 問である（設問作成時点で意図したもの：8 問、意図しなかったもの：7 問）。

この内、用言に後接するものは 12 問（5 名の回答）であり、体言に後接するものは 3 問（3 名の回答）のみであった。タイを用いた 6 名のうち、回答数の最も多い C がタイを用いた回答は、9 問中 8 問が用言に後接するものであり、次に回答数の多い F も、タイを用いた 6 問中 5 問が用言に後接するものである。場面ごとに分けてみる。

まず、聞き手を必要とする場合についてみていく。

#### ●聞き手にとっての新規情報

[16] 断言する・相手にうむを言わせない語気を持つ

こちらは用言に後接するもののみで 1 名（C）の回答があった。

[19] 突き放し・見放し

こちらは用言に後接するもので 1 名（C）、体言に後接するもので 1 名（D）のタイを用いた回答があった。

[23] 前提構成

こちらは、タイの回答が見られた設問 5 問全てが用言に後接するもので、計 3 名の回答があった。[23] では、<タイ>の他に、タイの使用を意図しなかった 4 問でもタイの回答が見られた（設問は、4.1 節を参照）。この（17）～（20）の設問は、本来 [23] のための設問ではないが、該当する項目上、話し手が一人で長く話し続けるため、[23] が用いられうるものであった。しかし、（17）～（20）の設問では、文章を大幅に変えない限り、体言に後接するタイが表れ得るものは作っていなかった。つまり、（17）～（20）は [23] の用言に後接するタイが表れやすい設問になっており、接続の仕方は偏ったものになっていた。

[23] は、<タイ>の（45）、（46）では、（45）で C の回答しか見られなかったのに対し、意図しなかった設問では、C に加えて E、F が回答する例も見られた。この差は、書き換えてもらった文の長さの違いであると思われる。長くなればなるほど、その都度聞き手に前提を確認する必要が生じ、尚且つタイの持つ強い意味機能によって、発言権を維持したまま話し手は一方的な会話を続け



るためによりタイの使用が目立つのである。また、テンポよく話を続けるという作用もあるだろう。体言に接続する設問も、より文の長いものを作成していれば、タイの使用が見られた可能性は無いとは言い切れない。ただし、(17)～(20)を作成する上では、[23] が表れることを第一に作成したわけではないので、先ほど述べたテンポよく話を続けるという点では、もちろん(45)、(46)の方がよりタイが出現しやすい文になっている。他地域若年層の女性では体言に後接する(46)でタイの回答がみられたことから(附録2を参照)、設問自体がそもそもタイを用いることができないものになってしまっているわけではない。福岡部壮年層・中年層の男性2名が、用言に後接する(45)では、両者ともタイを用いた回答をしたのに対し、(46)では、壮年層の男性はタイを用いず、中年層の男性は、わざわざ用言に後接する形に文を変えて回答していたことから、福岡部では[23]は用言に後接する形で用いる傾向があると言えよう。

#### ●聞き手にとっての既存情報

[31] その場の推論によって導出した知識について、相手の賛同を期待する

(21)、(53)ではC、(61)ではC,F,J,Kが回答し、3つの設問で計4名の使用が見られたが、いずれも用言に後接するものである。また、[31]を最も強く意識して作成した(61)のみで4名全員の回答が見られ、そのうち一名は表現を多少変えているものの、用言接続であることは変わらない(続けてるんだ?→(F)しよるったい)。

この項目のタイも、用言に後接しやすいと言えるだろう。

次に、聞き手を必要としない場合をみる。

[35] 予想・想像していた事態との不一致・意外性

この項目では、(69)(回答者はC)、(70)(回答者はJ)、(22)(回答者はC,F)、(26)(回答そのものは、元の文とは文意が全く違うものであり、用言に後接するものとなっている。回答者はF)の4問で回答があり、接続は半々の結果が出た。2問でタイを使用したC,Fは両者とも(い)、(ろ)の両方で回答している。このCとFは調査全体を通してタイの回答が多く、使用する項目も幅が広い。この両者が両方回答していることから、[35]は他の項目と比べて、接続による制約が緩いと考えられる。

以上より、福岡市福岡部若年層においてタイは、全体を通してみると、用言に後接しやすい傾向にあるが、[35]ではその傾向が弱いと考えられる。

#### 4.2.3. 聞き手にとっての情報の新旧

タイが用いられた、聞き手を必要とする項目（4項目、11問）の内、聞き手にとっての新規情報であるものは、3項目（8問、回答者：4名）であり、聞き手にとっての既存情報であるものは、1項目（3問、回答者：4名）であった。もともと設定した項目数が、新規情報14項目であるのに対して、既存情報は8項目であった。項目数、設問数に差はみられるが、回答者数自体は同じであることから、福岡市福岡部の若年層において、聞き手にとっての情報の新旧はタイを用いるか否かには関わってこない要素であると考えられる<sup>(注11)</sup>。

#### 4.2.4. 話し手の情報獲得源の違い

タイが用いられた設問を、話し手の情報獲得源で分けると、以下のようになる。なお、判別しづらかった設問には?を付けている。

現場の事物：1問…… (69)

推論の場：8問……(21),(22)?,(26),(37)?,(38)?,(53),(61),(70)?

記憶：6問……(17),(18),(19),(20),(31)?,(45)

常識：0問

今回の調査では、「推論の場」と「記憶」が話し手の情報獲得源となるものが圧倒的に多かった。「常識」を話し手の情報獲得源とするものではタイを用いた回答は無かった。しかし、この「常識」の項目は、設問を作成する上で、筆者が「記憶」とは分けた方がよいと思い、作った項目である。参考にした坪内(1995)では本来分けられている項目ではない。

また、今回は項目ごとにタイが出現し得る設問に偏りがあった。特に設定上、もともと偏るようになっていた「[31]その場の推論によって導出した知識について、相手の賛同を期待する」は必ず「推論の場」を話し手の情報獲得源とする(3問)。「記憶」を話し手の情報獲得源とした6問のうち5問は「[23]前提構成(発言権を維持したまま)」である。しかしそのことを差し引いても、話し手の情報獲得源を「推論の場」とするものが多い結果となっている。

## 5. 丁寧体に後接するバイ・タイ

今回の調査の丁寧体の設問では、丁寧体に加えて、方言も交えることのできる相手を聞き手に設定する必要があり、叔父等を聞き手としたところ、元の文を丁寧体にしていたにも関わらず、普通体で回答されてしまい、意図通りの回答が得られなかった設問も多かった。しかし、丁寧体で回答された文には、バイもタイも一切用いられていなかった。また、バイ・タイに限らず、他の方言形もほぼ用いられず、標準語で回答されていたため、福岡市福岡部の若年層においては、丁寧体には方言をほぼ使用しないものと考えられる。これは、福岡部の若年層のみのことではないようである。他地域若年層の女性と福岡部壮年層の男性も同様に、丁寧体には方言を用いていなかった。福岡部中年層の男性は、16問中7問では方言を用いていた。しかし、バイ・タイのいずれも用いておらず、「バイ・タイのどちらも、目上には使わない」ということであった<sup>(注12)</sup>。

以上より、福岡部若年層において、丁寧体へのタイ・バイの後続はなされないと考えられる。

## 6. 普通体・丁寧体に後接するバイ・タイに関するまとめ

今回の調査より、福岡部の若年層において、バイ・タイのいずれも衰退が非常に進んでいることが分かった。特にバイに至っては、今回の調査結果を見る限り、もはや消滅していると思われる。また、タイにおいても、用いたのは11名中6名と約半数であり、わずか5項目での使用であったため、非常に衰退していると考えられる。事実タイが用いられたいずれの項目の設問でも、タイを用いた回答者数が、その設問の回答者数の半数に達したものはなかった。また、個人差も大きく、Cが本調査でタイの使用がみられた5項目全てにタイを用いているのに対し、A,B,G,H,Iは1項目もタイを用いていない。バイほどではないものの、タイも非常に存続が危うい状況に置かれていることは間違いない。

## 7. バイとタイの代替形式

本調査でバイは全く用いられず、タイも僅かに用いられるに留まり、普通体に後接する<バイ><タイ>では、バイ・タイの代わりに様々な代替形式が用いられていた。バイ・タイいずれかにしか用いられなかった形式はなかったも

の、用いられ方には差がみられるものもある。以下の表2・表3は、普通体に後接する<バイ><タイ>でそれぞれの設問の回答者数の半数以上が使用した代替形式の使用率を示している<sup>(注13)</sup> (丁寧体に後接する<バイ><タイ>では、方言形がほぼ表れなかったため、[36]～[43]の設問の調査結果は、分析の対象には含めない。本稿での代替形式に関する記述は、全て普通体に後接する<バイ><タイ>に関するものである)。設問によっては、意図にそぐわず、分析に用いることができなかつた回答もあり、その場合は分析対象に含めなかつたため、回答者数(最大でインフォーマントの11名)は設問によって異なる。よって、「半数以上」というのは、その設問の回答者数の、少なくとも半数がその形式を使用したという意味である。

例：ヤンを使用した回答者数が、設問回答者数の半数に達した設問

(68) (一人で店へ出向いたものの、シャッターが降りており、定休日だったことを思い出して)

「あっ！ そういや今日木曜日だ！」

予期していた回答→木曜日たい！

実際の回答→木曜日やん！

設問の回答者数：10名、ヤンを回答した人数：7名

→ (68) でのヤンの回答率：70.0% (←半数以上である)

この場合、(68)は以下の表の設問数に数えられることになる((68)は<タイ>の設問のため、表3の中の設問数に数えられる)。代替形式は、<バイ><タイ>の少なくともいずれかで、1問でもその形式を使用した回答者数が、設問の回答者数の半数以上となった形式である。設問数とは、代替形式を使用した回答が半数以上となった設問数を表す。例えば、表2を例にあげると、<バイ>でヤンを使用した回答者数が、設問回答者数の半数以上であった設問は、(19)、(20)であるため、設問数は2である。回答率は、<バイ><タイ>それぞれの代替形式でその形式を使用した回答者数が、回答者全体の半数以上となった設問数の、それぞれ<バイ><タイ>の合計設問数に占める割合を表したものであり、どの代替形式がより<バイ><タイ>で用いられているのかを表している。未分類とは、どの形式を用いた回答も回答者全体の半数に達しなかつた、代替形式の定まっていなものを示し、設問数は代替形式の定まっていな設問の数を指す。回答率は、代替形式の定まらない設問数が、それぞれ

<バイ><タイ>の合計設問数に占める割合を指す。なお、設問の回答者数が、インフォーマントの数（11名）の半数に満たなかった（45）前は、データの少なさにより、未分類に含めている。

表2 <バイ>での代替形式使用率

	代替形式	設問数	回答率
標準語形	ヨ、ダヨ	8	36.4%
	カ	0	0%
方言形	助詞無し	0	0%
	ヨ(トヨ、ンヨ)	4	18.2%
	ヤン	2	9.1%
	ヤロ(ウ)	0	0%
	ヤネ	1	4.5%
	体言止め	0	0%
その他	未分類	7	31.8%
	計	22	100%

表3 <タイ>での代替形式使用率

	代替形式	設問数	回答率
標準語形	ヨ、ダヨ	4	7.8%
	カ	1	2.0%
方言形	助詞無し	2	3.9%
	ヨ(トヨ、ンヨ)	1	2.0%
	ヤン	5	9.8%
	ヤロ(ウ)	4	7.8%
	ヤネ	3	5.9%
	体言止め	2	3.9%
その他	未分類	29	56.9%
	計	51	100%

回答者数の半数以上に用いられた形式の中では、<バイ>では標準語形ヨの使用率が最も高いという結果になった。平山（1997）で（博多方言に関する記述ではあるが）「バイ」は急速に衰えており、代わって「ヤン・ヤガ」などが優勢になっている」という指摘があるように、バイに関して、ヤンに置き換わってきているとする先行研究も見られたが、今回の調査ではそのようにはなっていない。反対に、<タイ>では他形式との差は僅かであるが、ヤンの使用率が最も高いという結果となった。しかし、<タイ>では56.9%が未分類となっている。

以下では、今回の調査結果でバイ・タイの代替形式として用いられた中でも、標準語形のヨと方言形のヨ、ヤン（補足的にヤナイ）、ヤロ（ウ）に関して、それぞれの形式を用いた回答者数が、回答者全体の半数以上となった設問を対

象に、考察をしていく。

### 7.1. 標準語の終助詞「ヨ」と福岡市方言の終助詞「ヨ」

今回の調査では、体言に接続するものとして、「体言+ヨ」と「体言+ダヨ」という一見どちらも標準語にみえる形式が回答されている。しかし、標準語の「ヨ」の性質として、「判定詞「だ」、ナ形容詞の基本形の語尾「だ」を省略したものに「よ」を付けた言い方は、女性的表現になる」（益岡・田窪 1992）という特徴がある。「体言+ヨ」で位相差が表れないものもあるが、詠嘆や呼び掛けの意になってしまう（森田 2007）。今回の調査で得られた「体言+ヨ」は、タイやバイが出現し得る文であるため、詠嘆や呼び掛けの意ではないが、その使用は女性に限られたものではなく、最も標準語回答の多いAを除く男性（B・G・H・I）に使用が見られる。また、（体言+ヨの形で見られる場合に特に）「それは当然である」というニュアンスを持って使われる場合もあるように思われるため、女性的な表現であるとは言えない。藤原（1985）では、福岡県では「自己の意を言う「ヨ」、説明の「ヨ」、命令・勸奨の「ヨ」などが行われている」としている。挙げられている例はすべて用言に接続するものだが、位相差に関する記述はない。藤原（1985）以外では福岡方言の文末詞「ヨ」に関する記述は見られないものの、本調査でみられた体言に直接接続する「ヨ」に関しては、標準語形の「ヨ」とは明らかに性質を異にするものである。そのため、本調査で得られた体言に直接接続する「ヨ」は方言の文末詞「ヨ」とする。

用言に接続する「ヨ」に関しては、標準語の「ヨ」であるのか、福岡方言の「ヨ」であるのか区別を付けたい。しかし方言形には方言形が付きやすいということもあるため、ヨが接続する前部要素が方言形となっているものは福岡方言の文末詞「ヨ」、標準語形に接続しているものは標準語形の文末詞「ヨ」と本稿では区別することとする。

例：体言に後接する場合

(30) (試験も終わったのに、今日は学校に行かなくていいのかと尋ねてきた母に対して)

あなた「もう試験終わったから夏休みだよ」

回答1：夏休みだよ→標準語形のヨと判断

回答2：夏休みよ→方言形のヨと判断

例：用言に後接する場合

(1) (すぐ近くのテーブルの上にスマートフォンが置いてあることに気づかず、探し続けている友人に対して)

友人 「スマホどこやったっけ？」

あなた 「そこに乗っているよ」

回答1：乗っているよ→標準語形のヨと判断

回答2：乗っとうよ→方言形のヨと判断

下の表4・表5は、標準語形のヨ、方言形のヨそれぞれの、後接する形別と全体の<バイ><タイ>での回答率を示している（(小カッコ)内の数字は、その形式を用いた回答が、設問回答者数の半数以上となった設問の数である）。回答率とは、表4では標準語形のヨ、表5では方言形のヨを用いた回答をした人の数が、回答者数全体の半数以上となった設問の数が、<バイ><タイ>それぞれの用言・体言・全体の設問数に占める割合を表している。

表4の用言を例にすると、標準語のヨを用いた回答者数が、それぞれの設問の回答者数の半数以上となった設問は、(2),(6),(7),(8),(10),(11),(15),(17)の8問であり、そのうち用言に後接するのは4問である。<バイ>のうち、用言に後接する設問は、11問であるため、用言に後接する<バイ>に占める標準語のヨの回答率は、36.4% (4/11) となる。

表4 標準語形のヨの回答率

	用言	体言	全体
<バイ>	(4)36.4%	(4)36.4%	(8)36.4%
<タイ>	(1)3.8%	(3)12.0%	(4)7.8%

表5 方言形のヨの回答率

	用言	体言	全体
<バイ>	(3)27.3%	(1)9.1%	(4)18.2%
<タイ>	(1)3.8%	(0)0%	(1)2.0%

標準語形のヨに関してタイとバイを比較すると、<バイ>では、少なくとも回答者数の半数が標準語のヨを用いた設問数が、<バイ>全体の設問数の3割を超えているのに対し、<タイ>では、1割に満たない。タイより早くバイの

弱体化が始まったが故に、標準語の侵入も進んでいるとも考えられるが、パイとタイの意味機能の違いも大きな理由であろう。

蓮沼（1995）によると、標準語のヨは「認識上何らかのギャップが存在する文脈で、認識力の発動を促し、認識形成を誘導する標識」であるという。「認識上何らかのギャップが存在する文脈」とは、「当該の事態に気づいていないとか、忘れていたといった理由で、話し手または聞き手の側に欠落が生じている状況や、両者の間に情報の把握や発話の意図の解釈などをめぐって、食い違いや誤解・無理解が生じているような状況」を指し、「その欠落や食い違いを補完・補充しその修復のために働く形式」であるとしている。標準語形のヨの機能は、パイの機能と酷似しているのである。「ヨネ」の形式で表れるヨは、「それが話し手の個人的な意見ではなく」、「特定の仲間との共有知識」や「常識・一般知識のようなもの」であり、「確かな根拠に裏打ちされたものである」という意味を付与するが、単体のヨはこのような機能を持たない。タイとの置き換えも可能ではあるが、タイが「自分の記憶や常識に照会する」という機能をも持つため、ヨでは情報が確かなものであると示せず、タイを用いた場合より、やや弱い表現となってしまう。また、タイは様々な語用論的意味もつため、その中にはヨと置き換え不可能なものもある。このように、タイはパイと比べてヨで代替しづらいのである。そのため、パイとタイで結果に差が表れたのだと考えられる。

一方、方言形のヨは、筆者の内省では標準語のヨに比べて「当然のことである」というニュアンスを伴って使用される場合もあると思われるが、＜タイ＞では半数以上となった設問は（47）の1問のみである（この設問では強いニュアンスは感じられない）。今回、体言＋ヨの形に方言形と標準語形で違いが大きく表れるため、用言に接続する場合のヨも標準語形と方言形とで分けたが、本調査で回答された設問では、藤原（1985）で言う「説明の「ヨ」」として用いられており、時としてニュアンスの違いはあれど、標準語形の「ヨ」と意味機能に差があるようには思われない。方言形のヨで半数以上となったものは1問のみであったことから、方言形のヨは標準語形のヨに比べると強いニュアンスを持つこともあるが、タイと置き換えができるほどではないと考えられる

（注14）。

## 7.2. デハナイ（カ）相当形式とヤロ（ウ）

今回の調査で半数以上に用いられたヤンは、標準語のデハナイ（カ）をカバ



一する福岡市若年層方言の形式の一つである。標準語のデハナイ（カ）をカバーする形式には、この他にも、福岡方言形ヤナイ、東京方言形ジャン、標準語形ジャンイなどがあり（平塚（2009））、これらも半数には満たないものの散見された。これらデハナイ（カ）相当形式は、共に今回用いられたヤロ（ウ）と一部重なる用法を持つ。今回の調査で、ヤンはバイ・タイの一部の項目と置き換わりがはっきりと表れた代替形式である。ヤロ（ウ）は、本稿では詳細な分析を載せていないヤネや体言止め<sup>（注15）</sup>といった代替形式と同様に、ヤンのようにある項目との置き換わりがはっきりと見られるわけではないものの、形式のもつ用法を活かし、より設問に合った豊かな表現に繋がっている形式の一例として、分析を行っていく。

ヤロ（ウ）の用法は、大きく分けて推量と確認要求があるとし、確認要求の下位分類に関しては、蓮沼（1995）での分類を用いる。また、デハナイ（カ）相当形式に関しては、蓮沼（1995）での分類に加えて、田野村（1988）での分類も用いてみたい。

まず、デハナイ（カ）相当形式の田野村（1988）の分類をまとめると以下のとおりである（波線は筆者によるものである）。

第一類：発見した事態を驚き等の感情を込めて表現したり、ある事柄を認識するよう相手に求めたりするもの。「ない」を含むとは言え、前に来る表現の内容が否定されているわけではない。

よう、田中じゃないか。

何をする、危ないじゃないか。

自分から言い出したんじゃないか。

第二類：推定を表現する。話者は前の表現の内容を否定してはおらず、寧ろ、それを認める方に傾いている。

（不審な様子から）どうもあの男犯人じゃないか？

（空模様を見て）雨でも降るんじゃないか？

第三類：「ない」が否定辞本来の性格を発揮する。

（1は素数ではないことを教えられて）そうか、1は素数じゃないか。

（1ハ素数デナイト君ハ言ウガ得心デキナイ。）本当に1は素数じゃないか？

次に、ジャナイカ、ダロウ、ヨネの確認要求用法の蓮沼（1995）での分類は以下のとおりである（ヨネは本稿に関わらないため、ヨネに関する記述は省略している）。

**【1】 共通認識の喚起：**認識的に優位の位置にいる話し手が、自分と同様な認識をもつように聞き手を促し、その成立状態を確認する。

・喚起対象となる情報…話し手・聞き手の共有する過去の経験の中の要素、一般通念、想定上で仮に構築された状況

⇒ダロウ・ジャナイカが担う

同級生に加藤さんっていた |だろう／じゃないか|。

**【2】 認識形成の要請：**通常の認識能力をもっていれば、認識できて当然といった見込みに基づいて、聞き手に認識形成を要請する用法。

⇒ダロウ・ジャナイカが担う

(帰りの遅い夫を非難して)

妻：遅いじゃないの

夫：仕方ない |だろう／じゃないか|。仕事が忙しいんだから。

**【3】 推量確認：**聞き手の知覚・感情・判断など、本来的にその直接の経験者・持ち主である聞き手に帰属する情報や、聞き手の領域の情報について、話し手の推測が正しいことを確認する用法。

・確認の対象：「聞き手に最終的判断の決定権のあることについての話し手の推測の妥当性」

→聞き手だけでなく、話し手自身に関することでもよい

⇒ダロウのみ

疲れたでしょう。ゆっくり休んでね。

**【4】 認識生成のアピール：**話し手が知識を獲得したことを詠嘆的に表明する用法。（今まで気づいていなかったことを発見した際の驚きや、話し手の個人的な評価や意見を聞き手にアピールするような場合）

→自分の認識体験を聞き手も共有するように訴えかけているといったニュ

アンスがある。

⇒ジャンナイカのみ

(開けてみたら中身が空なのを発見して) なんだ、空っぽじゃないか。

蓮沼 (1995) の分類でのジャンナイカは田野村 (1988) での第一類に属するものである。

そのため、蓮沼 (1995) での【1】共通認識の喚起【2】認識形成の要請【4】認識生成のアピールは、第一類のデハナイ (カ) 相当形式が担う用法である。蓮沼 (1995) では、【1】共通認識の喚起【2】認識形成の要請は「本稿では「よね」の使用の可否という観点から二つの用法を分けているが、「だろう」が果たしている働きに限ってみれば、この用法の間に大きな違いはなく (後略)」と述べており、【1】は【2】の延長線上にある用法である。本稿で扱う形式に関してもそれは同様であると考え、本稿では、

〔1〕共通認識の喚起・認識形成の要請

〔2〕推量確認

〔3〕認識生成のアピール

という3つの用法として捉えていく。

「〔2〕推量確認」は、第一類のデハナイ (カ) 相当形式は担うことができないが、宮崎 (2005) のデハナイカやダロウの先行研究の分類の対応関係を示した表によると、第二類のデハナイ (カ) が担うと考えられる。田野村 (1988) では、推定を表す第二類のデハナイ (カ) が疑問文の形式を取り、その姿勢が「相手に (も) 向けられれば、判断の提起や同意の要請となる」としている。この場合、「〔2〕推量確認」の用法に近くなるのだと思われる。とはいえ、この第二類のデハナイ (カ) に関して、田野村 (1988) では、「[らしい][だろう」等に比べ、非断定的である」としている。本稿では全く同じものとは捉えず、分けて考えていく。

### 7.2.1. ヤン

ヤンは、平塚 (2009) によると、デハナイ (カ) 第一類の用法のみを持つため、蓮沼 (1995) での分類を用いて、本調査でヤンを用いた回答者数が回答者全体の半数以上となった設問 (<パイ> : 2 問、<タイ> : 5 問) を分類すると以

下のおりである。項目の後ろに（小カッコ）で示しているのは、その設問の回答者数に占める、ヤンを用いた回答者の割合である（以下、同じように記していく）。なお、今回の調査では、回答者全体の半数以上となった設問のうち、「[2] 推量確認」に分類されるものはみられなかった。

### [1] 共通認識の喚起・認識形成の要請

<タイ>

《聞き手を必要とする場合》

#### ●聞き手にとっての新規情報

基本的な意味機能

(23) (ずっと家にいる母が遠くから窓を見て)

母 「なんか空暗くなってきたなあ、雨降り出すかなあ」

あなた「いや、さっきから雨降っているじゃないか」

→降るとるやん（か）・降っとうやん・降ってるやん

… [12] 情報獲得源：現実の事物→気づかせる（72.7%）

#### ●聞き手にとっての既存情報

基本的な意味機能

(55) (家に帰るなり、弟ががっかりした顔をして)

弟 「えーっ！漫画買ってきてくれてないと?!」

あなた「昨日自分で買ってくるっていっていたじゃない。忘れたの？」

→いいよったやん・いっとったやん・いったやん

… [28] 話し手の情報獲得源：記憶→思い出させる（72.7%）

派生する意味機能

(65) (福岡出身の歌手の話をしながらか)

友人 「福岡出身の歌手って、YUIとか松田聖子の他に誰がおったっけ？」

あなた「ほら、武田鉄也とか他にもいっぱいいるじゃないか」

→おるやん（か）

… [33] 気づかせる・思い出させる（60.0%）

### [3] 認識生成のアピール

<バイ>

<聞き手を必要としない場合>

(19) (友人に昨日の話をしながら)

あなた「昨日、友達と買い物に行ったんだ、そうしたら帰りについでに飲みこうということになったんだ、つい飲みすぎてしまったのだけれど、もう帰ろうって言い出した時に財布を見たらお金がギリギリで、これじゃあバスに乗れないじゃない!って思って……」  
→乗れんや (一) ん

… [10] 過去の状況の説明として独り言のように用いる場合 (過去の状況で完全な独り言である場合) →気づき (72.7%)

(20) (友人に、今朝の大変だった話をしながら)

あなた「今日、家を出た後で財布忘れたのに気が付いて、それで取りに帰ろうとも思ったんだけど、定期忘れてなかったからいいやって思ってた、駅に着いたところで、『定期の更新日って今日だ!』って気づいて……」  
→今日やん (今日定期の更新日やん)

… [10] 過去の状況の説明として独り言のように用いる場合 (過去の状況で完全な独り言である場合) →気づき (70.0%)

<タイ>

<聞き手を必要とする場合>

●聞き手にとっての既存情報

派生する意味機能

(63) (友人ととあるレストランに行く日を決めたが、友人がその日を調べた所、  
丁度そのレストランの定休日だった時)

友人 「19日にしようって言ったけど、水曜日だから定休日だよ」  
あなた「えっそれじゃあ行けないじゃない!」  
→行けんやん (か) !

… [32] 「当たり前である、前提である」ということに気づく (70.0%)

<聞き手を必要としない場合>

(68) (一人で店へ出向いたものの、シャッターが降りており、定休日だったことを思い出して)

あなた「あっ！ そういや今日木曜日だ！」

→木曜日やん！

… [34] 思い出し (70.0%)

設問をみれば明らかであるが、圧倒的に、書き換えてもらう前の標準語の文で、ジャナイ（カ）を用いていた設問が多い。用法ごとにみると、ヤロ（ウ）と共通する「[1] 共通認識の喚起・認識形成の要請」の用法は、タイの「[33] 気づかせ・思い出させ」に合致している。また、「[3] 認識生成のアピール」は、独り言で用いられるバイの「気づき」・タイの「[32] 「当たり前である、前提である」ということに気づく」、 「[34] 思い出し」に対応している。

「[1] 共通認識の喚起・認識形成の要請」の用法は、＜タイ＞でのみ、ヤンを使用した回答者数が設問の回答者数の半数に達したものがみられるが、＜バイ＞で用いられないわけではない。しかし、「分かって当然のことなのだから認識せよ」というニュアンスを持つため、文脈によっては、非常に強い表現となる。そのため、＜バイ＞では表れにくかったのではないだろうか。＜タイ＞に関しても同様である。強く相手を非難する文脈や、反対に絶賛する文脈に表れている。

「[3] 認識生成のアピール」はヤンに固有の用法である。安達(1991)によると、田野村(1988)の分類の第一類のヤンは、問い掛け性を持たず、判断の主体は話し手にある。また、蓮沼(1995)によると、第一類の確認要求のジャナイカの基本的な機能は、「話し手の知識獲得の詠嘆的表明」である。この機能が最も表れているのが、「[3] 認識生成のアピール」である。基本的な機能が強く出るならば、必ずしも聞き手を必要とするわけではないだろう。今回表れた「気づき・思い出し」は、聞き手がいる場合にも、いない場合にも用いられている。しかし、情報を獲得しただけでなく、その情報を周りに知らせる必要がある(17)では、ヤンはあまり用いられていない。

(17) (友人に昨日の話をしながら)

あなた「昨日、ファミレスでテスト勉強しようということになったんだ、でも暑かったから、まずアイスなどを食べようということになったんだ、それでしばらく喋っていたらいつの間にかすごく時間が過ぎていて、このままじゃ勉強する時間がなくなるよ！ってことになって……」

また、相手の意見に同意するニュアンスのある (64) のような気づきでは、同意を示すヤネが用いられ、ヤンはあまり用いられない。

(64) (明日ひどい悪天候であるという天気予報を友人と見ながら)

友人 「明日雨酷いってことは、バスだけじゃなくて電車も遅れたりする  
とかいな？」

あなた「あっそれもそうだね」

そういった理由から、「気づき・思い出し」は話し手が相手に知識を獲得したという表明以外のことをする必要のない、独り言に近い文脈でより「[3] 認識生成のアピール」の用法のヤンが表れやすいように思われる。

先行研究では、バイはヤンに置き換わっていているという記述を目にする  
が、それは独り言のように用いられるバイに関してのことであろう。今回の調  
査では、バイに関する独り言の項目は極端に少なかったため、このような結果  
になったと考えられる。しかし、実際にはヤンの両方の用法を用いやすい、「[32]  
「当たり前である、前提である」ということに気づく」、「[33] 気づかせる・思  
い出させる」、「[34]「思いだし」」の語用論的意味を持つタイの方が、ヤンと  
置き換わりやすいと考えられる。

## 7.2.2. ヤナイ

回答者数の半数以上にヤナイが使用された設問は無かったものの、ヤナイは  
ヤンよりも古い方言形であり、より広い用法を持っている。ヤナイが半数には  
達しないまでも 30% を超えて使用された設問についてみると、<バイ>では  
3 問、<タイ>では 2 問が、いずれも第二類の推定の意で用いられていた。以  
下にそれぞれの例を 1 問ずつである ((小カッコ) 付きの“?” は、回答者によ  
って使用が分かれたものである)。

<バイ>

◀聞き手を必要とする場合▶

●聞き手にとっての新規情報

基本的な意味機能

(3) (まだ幼い従姉弟が自分にばかりいじわるをしてくる、と悩んでいる友人

の話聞きながら)

友人 「いつもうちにばかり、ちょっかいかけてくるんよね～…なんで  
かいな」

あなた「それ、多分好かれてるんだよ」

→好かれとるんやない？、好かれてるんやない、好かれ  
とっちゃない？

… [2] 話し手の情報獲得源：推論の場 (36.4%)

<タイ>

《聞き手を必要とする場合》

●聞き手にとっての新規情報

派生する意味機能

(41) (友達とショッピングへ行き、友達を買おうとしている服についての意見を求められて)

あなた「まあ、色はいいよ」

→いいっちゃんない(?)、いいんやない？

… [21] 暫定的承認 (30.0%)

ヤナイにはヤンの表し得る用法も網羅し、より広い意味を表し得るにも関わらず、なぜ推定の用法に偏って用いられたのか。それには、福岡市若年層における、デハナイ(カ)類の棲み分けが関わっていると思われる。平塚(2009)では、デハナイ(カ)類について、用法ごとの棲み分けが、以下のようになされていると報告している。

表6 福岡市若年層によるデハナイ(カ)相当形式の棲み分け(平塚(2009))

用法	形式	
I類	ヤン(ジャン)	
II類	準体助詞ン	ジャナイ
	準体助詞ト	ヤナイ
	準体助詞Φ	ヤナイ/ジャナイ
III類	ジャナイ	
同意要求	ヤナイ/ジャナイ	

ヤナイは、第一類(表6ではI類)、第二類(表6ではII類)、同意要求と広



い意味を表し得るが、福岡市の若年層においては、ほぼ第二類と同意要求でしか使用されないのである。この棲み分けが、〈バイ〉〈タイ〉においても行われているのだと思われる（同意要求用法に関しては本稿では関わってこないため、触れないでおく）。

次に、先ほど挙げた例を分析してみると、(3) は話し手が推論の場から獲得した知識に基づいた発話をしており、「多分」という言葉も相まって、断定を避ける表現となったのではなかろうか。(41) は暫定的承認であり、友人が買おうとしている服についての意見を求められ、発話をしている。暫定的なため、「色」以外については否定的な印象を与える文脈である。しかしそのまま素直に意見を述べようとした結果、曖昧な表現になったのではないだろうか。

ヤナイの推定に似た、推量用法でヤロ(ウ)も用いられうるが、田野村(1988)によると、第二類のデハナイ(カ)に関して、「[らしい]」「[だろう]」等と比べ、非断定的である」という。

つまり、福岡市若年層でのデハナイ(カ)類の棲み分けにより、ヤナイは断定的な意を強く持つバイ・タイとは相いれない、第二類での使用に制限されており、さらに第二類の中でも、近い用法を持つヤロ(ウ)と比べても非断定的なのである。結果として、バイ・タイの代替形式としては、ますます使用が目立たなくなっているのだと考えられる。また、標準語語形のジャナイ(カ)も散見されることから、ヤナイ自体が衰退してきていることも理由の1つであると思われる。

### 7.2.3. ヤロ(ウ)

福岡市方言では断定の助動詞に、標準語の「ダ」に相当する、「ヤ」が用いられる。しかし、この「ヤ」は「ダ」と全く同じ働きをするというわけではない。「ヤ」には文を終止させる能力が無く、独立性が低いとされている(坪内(1995))。そのため、「ヤ」は「ダ」と全く同じ機能を果たすものであるとは言えないが、「ダロウ」に関する先行研究を概観したところ、「ヤロ(ウ)」の用法も変わらないと思われた。そこで、本稿では、「ダロウ」同様、「ヤロ(ウ)」は推量用法と確認要求用法([1] 共通認識の喚起・認識形成の要請、[2] 推量確認)を持つものとする(ただし、今回の調査で「[2] 推量確認」は見られなかった)。

#### 推量用法

##### 〈タイ〉

＜聞き手を必要とする場合＞

●聞き手にとっての新規情報

基本的な意味機能

(28) (花子・太郎と遊ぶ約束をしていたが、定刻になっても太郎が来ないため、

花子が心配して)

花子 「太郎、どうしたんやろ？ 事故にでもあったとかいな……」

あなた「前にも寝坊してたから、どうせただの寝坊だよ」

→寝坊やろ

… [14] 話し手の情報獲得源：記憶 (60.0%)

確認要求用法

[1] 共通認識の喚起・認識形成の要請

＜タイ＞

＜聞き手を必要とする場合＞

●聞き手にとっての新規情報

基本的な意味機能

(29) (福岡県外出身の友人の勘違いに腹を立てて)

友人 「ひよこって東京銘菓じゃないの？」

あなた「福岡銘菓に決まっているだろう!」

→決まってるやろ (!)、決まっとうやろ (!)、決まってるやろ !

… [15] 話し手の情報獲得源：常識 (62.5%)

派生する意味機能

(35) (駐車違反で罰金を払った友人が、不満そうに話しているのを聞いて)

あなた「あなたの注意不足が原因なんだから、そりゃあ払わないといけな

いよ」

→いけんやろ (うね～)、いかんやろ

… [18] 言いきかせる (55.6%)

●聞き手にとっての既存情報

基本的な意味機能

(58) (食中毒で病院に運ばれたことがある友人に、その時の話をしてもらいな

がら)

友人 「焼肉食べに行ったっちゃけどさ、鶏肉見るからに生焼けでヤバそ

うやなって思ったけど、まあいいかと思って食べたら食中毒起こした」

あなた「それは当たり前だよ」

→当たり前やろ（～）

… [29] 話し手の情報獲得源：常識（60.0%）

ヤロ（ウ）を使用した回答が回答者全体の半数以上となった設問のうち、推量用法で用いられていたのは、(28)のみであった。近い用法を持つヤナイも見られるが、1名のみ回答である。以前にも太郎が寝坊したことを知っている話し手は断定するほどではないが、多少確信を持っていると回答者は判断したため、断定性がより強い推量用法のヤロ（ウ）を用いた回答が多くなったのではないだろうか。

一方、確認用法では、ヤロ（ウ）に固有の「[2] 推量確認」はみられず、ヤンと重なる用法である「[1] 共通認識の喚起・認識形成の要請」のみが設問の回答者数の半数以上に用いられた。ダロ（ウ）を用いた場合、判断の決定権は聞き手に存在する。デハナイ（カ）形式を用いた時と同様に、聞き手は認識できるはずだという見込みがあり、「あなたに備わった認識能力を駆使すれば認識できるはずだ。そうだね」といった理屈から教え諭すニュアンス（蓮沼(1995) p.401）」を持つ。一方、判断の決定権が話し手に存在するデハナイ（カ）を用いた場合、「当然分かるはずのことなのだから、私の言うことをしっかりと受け止め認識せよ」といった、話し手の意見を聞き手に直接アピールして認識を迫る（蓮沼(1995) p.401）」ことになる。(29)では、話し手は聞き手の勘違いに非常に憤っているが、その内容は福岡県民ならば、常識だと思っていることである。そのため、押し付けるようなニュアンスを伴うヤンではなく、理屈として当然君も分かるはずだね、と教え諭すヤロ（ウ）が用いられたのではないだろうか。(35)では、不満そうに納得していない聞き手に対して、一方的に押し付けず、君もそう判断するだろうと柔らかく表現するヤロ（ウ）が好まれたのだろう。(58)は、聞き手の話は常識的に考えれば当然分かるはずのことであり、ヤロ（ウ）を用いて教え諭すニュアンスを伴うことで、話し手の呆れた様子が感じられる。

## 8. 結論

調査結果より、福岡市福岡部の若年層では、バイはほぼ消滅し、タイも衰退が進んでおり、以下の5つの用法のみで用いられていることが分かった。

[16] 断言する・相手にうむを言わせない語気を持つ

[19] 突き放し・見放し

[23] 前提構成

[31] その場の推論によって導出した知識について、相手の賛同を期待する

[35] 予想・想像していた事態との不一致・意外性

今回タイが見られた項目の内、[16] [19] は、タイ本来の、「聞き手にとっての新規情報や既存情報を、自己の記憶・常識・知識に裏づけた（照会した）上で提示する」という機能が強く表れている。一方、[23] [31] [35] は、タイの機能が応用されたという印象の強いものである。今回の調査では、タイ本来の機能が強く表れる用法、応用による用法の両方が表れたが、回答人数の違いをみると、応用による用法の方がより使われる傾向にある。

前者がヨ1つでも置き換えが可能なのに対し、後者では代替形式は1つには定まらない。また、前者は理路整然とした尊大な態度を醸しているのに対し、後者ではそのような相手を圧倒する態度は示さない。[16] [19] はタイがもつ意味機能故に、相手に対し、圧を持った態度となってしまうのに対し、代替形式であれば、強く言いたい場合は語気が加わればよく、ニュアンスの調節がしやすい。それが代替形式がよく使われた理由ではないか。その結果、[23] [31] [35] の応用による用法でタイがよりあらわれる傾向になったのかもしれない。

また、代替形式を考察したところ、機能が似ていることから標準語の「ヨ」との置き換えがされやすい<バイ>では、特に情報の獲得源が「推論の場」であり、聞き手も全くその情報を知らない場合に多く断言を避ける形式が見られた。そして、<タイ>では、語用論的意味が多様であるが故に、タイを用いなければ、その他の多様な形式の、各々の用法でカバーしなければ対応できず、形式同士が重なる用法を持ち、対応する項目もあり、代替形式が一つにまとまらないものが多く表れたようである。

<タイ>の中でも非断定的である方が都合の良い項目や、反対により強い表現が好まれる項目があり、タイという一つの形式で表すより、多様な形式を用

いることで、表現が豊かになっているとも言える。

## 9. 今後の課題

本稿では、バイとタイの福岡部若年層における使用状況、福岡部若年層で依然としてタイが用いられる用法、そしてバイ・タイが用いられない場合の代替形式について、筆記調査をもとに考察した。しかし、バイとタイの福岡部若年層での現状をより正確に知るためには、談話調査も必要であろう。今回は、福岡部の若年層がバイ・タイをどのような意味で用いているのか明らかにすることに重点を置いたため、筆記での調査を行った。しかし、設問で用いた標準語につられて、普段の会話より多く標準語を用いた回答となった可能性がある。また、普段の会話ではより多くタイを用いたり、バイにせよタイにせよ、ジモ方言として方言コスプレのようになれば、用いられる場面もあるかもしれないが、今回はそこまで調査することができなかった。特に、「[23] 前提構成」の用法に関しては、(文の長さの問題からか)意図した設問であまり収集できなかったが、実際の調査結果よりも多くの話者で回答がみられると推測していた。筆者が日常会話の中で、最も多く用いられていると感じていたのがこの用法であったからである。会話権を譲らずに話し続ける用法であり、現場性が特に大切な用法であると思われる。また、本稿では触れなかったが、イントネーションも関わってくると考えられ、この点は今回の調査と談話調査とでは、差が出るとと思われる。

反省点として、今回の調査に用いた丁寧体の設問では聞き手の設定に配慮が足りず、また全体を通して、回答に関する説明不足から、意図通りの回答が出せなかった設問が多く出てしまった。これは筆者のミスである。

本稿では先行研究を元に、博多部を除いた福岡市の若年層に限定して調査を行い、実態を明らかにした。そのため、博多部の若年層や、福岡部の他年層の実態までは把握できなかった。今後の課題として、談話調査を行うだけでなく、博多部などの他地域の若年層や、福岡部の他年層での実態も調査し、比較を行っていく必要があるであろう。

## 【注】

注 1) 福岡市は、博多区北西部の那珂川と御笠川に挟まれた地域（おおよそ奈良屋、大浜、冷泉、御供所の各小学校区に相当）が狭義の博多部とされる（平山（1997））。先行研究は、博多部に限定されるか、もしくは福岡市や福岡県といった大きな括りで行われているものが多かったため、博多部を除いた福岡市の地域を調査対象とした。しかし、博多部を除いた地域を指す適切な言葉が見つからなかったため、本稿では、狭義の博多部に対して、福岡市の博多部以外の地域を指して、福岡部という言葉を用いている。そのため、本稿で指す福岡部には、本来の福岡部という言葉の指す地域に含まれない、博多部にも福岡部にも属さない福岡市の地域も含まれている。

注 2) 本稿では、30 歳以下を若年層とする。また、31～44 歳までを壮年層、45～64 歳までを中年層とする。

注 3) 本稿での新規情報と既知情報の定義は、坪内（1995）や平川（2008）とは異なっている。坪内（1995）では、新規情報に当たるのは、H-領域に無い情報であり、「①聞き手が全く知らない情報」と「②聞き手は本当は知っているはずだが、一時的に認識できていない情報」である。一方、既存情報（坪内（1995）では既知情報）に当たるのは、「③聞き手が談話中に認識できている情報」である。平川（2008）での新規情報の捉え方は、坪内（1995）と同様であり、坪内で既存情報としているものは、本文中に記したとおり、③としたり、新規情報として捉えている。本稿の定義では、先行研究では新規情報にとされている②を既存情報に含めている。②は③に非常に近く線引きが難しい場合もあるからである。また、先行研究のように意味機能を表す仕組みを明らかにすることに重点を置いていないため、情報の書き込み方の違いで、①と②を新規情報、③を既存情報と線引きする必要はないと考えたためである。そのため、先行研究での定義では、バイは新規情報のみを表すことになるが、本稿の定義では、既存情報も表すということになる。

先行研究では、③をバイが提示することはないとされるが、実態を正確に把握するために、今回の調査では、バイにも、③にあたる設問を設けた。しかし、インフォーマントの負担も考え、問題数をあまり多くできなかつたり、筆者の配慮が足りなかつたために、既存情報の設問は、②と③が入り乱れてしまっている。正確に調査することを考えれば、①②③の3つを分けて設問を作るべきであった。

バイの聞き手にとっての既存情報の設問のうち、②は(13)、(15)、③は(11)、(12)である。(9)、(10)、(14)、(16)は、②か③かはっきり判別しきれない、中間的な設問である（設問は附録1を参照）。平川（2008）によると、普段なら分かるはずの情報を一時的に失うか、または意図的に考えないようにしている場合に限り、話し手はこれらの情報を「聞き手にとっての新規情報」として提示してもよいとし、分かり切っているはずの情報を改めて「新規情報」として提示すると、「まだ分かっていないのか」という話し手の強い怒りを伝える効果を生むことがあるという。これに従うと、(9)、(10)、(16)は②と言えるだろう。しかし、(14)はこれに沿っているといえるか難しい。バイ・タイが表し得る情

報が聞き手にとってどのような情報なのかについては、やはり、より詳細な調査が必要であろう。

注 4) 話し手の情報の獲得源について詳しく記述されていたのは、坪内 (1995) であったため、基本的な機能に関する質問については、その考えに沿って、話し手の情報源の違うものを明確に作成した。坪内 (1995) では、パイのように基本的な意味機能としての項目は作られていなかったが、タイの基本的な意味機能の項目は、筆者がパイと比較するために明確に作成する必要があると思い、設定した項目である。ただし、タイの基本的な機能はタイの表す多様な語用論的意味に分類できる場合がある。また項目は、より多くデータを収集し、福岡部の若年層が使用するタイを掴むことを目的としたため、全く違う場面のものから、状況が僅かにことなるのみのものまで、幅があることを断っておく。

また、先行研究中では、「気づき・思い出し」とされている用法を「[25] 思いだし」としているが、これは 1.2 節で確認したとおり、パイが気づきを表し、タイは思いだしを表すというように分かれているからである。「気づき」の項目は今回明確に設けてはいないが、「気づき」は聞き手のみならず話し手にとっても新規情報であるため、必ずしも聞き手を必要とはせず、別の項目として設定した、聞き手を必要としない(17),(19),(20)がこれにあたる。

注 5) しかし [32] (64) とは、これにそぐわない。この設問では、名詞のかわりに副詞「そう」を使っている。他の項目との統一性を欠くものであり、別に名詞を使った項目を設けるべきであった。しかし、先行研究で例文としてあげられていたのは「そう」に後接するものあり、これがもっとも「タイ」が回答されやすい形であると判断したため、質問文に用いた。最も導出しやすい「そう」でも用いられず、本調査より、より「タイ」が接続しやすいと思われる用言接続の場合でも用いられていなかったため、体言での出現は難しかったのではないかと予測される。

また、パイの聞き手にとっての新規情報の「[4] 話し手の情報獲得源:常識」の (い) 用言に後接する場合にあたる (7) は、筆者のミスにより、本稿では既存情報に含めている「②聞き手は本当は知っているはずだが、一時的に認識できていない情報」を提示する設問になってしまっている。再調査は行えていないため、本稿では [4] (い) にあたる設問がない ((7) は [8] の (い) に含めている)。注 8 に記している A~K 以外の調査協力者 3 名の回答の中では、[4] の (ろ) 体言に後接する場合でパイを用いたものがあつた (福岡部中年層の男性)。聞き手にとっての既存情報の「[8] 話し手の情報獲得源:常識」の設問では、パイの項目で唯一 (い) (ろ) 両方でパイを用いた回答が得られたことから、正しく [4] (い) に当たる設問を設定できていれば、A~K 以外の調査協力者 3 名の中でパイを用いた回答がみられたかもしれない。この点においても、今回の調査は不十分であったと思われる。この 3 名の調査から、「話し手の情報獲得源:常識」とするものが他の情報獲得源のものよりもパイが用いられやすいと見られ

る。しかし、それならばA～Kの回答の中でも「話し手の情報獲得源：常識」とするものがみられてもよいはずだが、実際にはパイを用いた回答は一切見られなかった。さらにA～K以外の調査協力者3名の中でパイが用いられた回答には、聞き手にとっての情報の新旧による著しい差はみられなかった。そのため、A～Kで[4] (い)の再調査は必要であると思われるが、パイが用いられるとは考えにくい。

そして、設問によっては、用言もしくは体言に直接パイ・タイが後接せず、間に「から」や「まで」等の助詞を挟む方が自然な文脈となるものもある。そのような場合、助詞が挟まれたか否かは問題とせず、助詞が挟まれていないものと同様に、分析対象に含めている。

注 6) 筆者の確認不足により、調査結果を分析中に、本研究に不適当であったと分かった質問が出てしまったため、後日インフォーマントに6問だけの再調査を行った。その際は、カモフラージュの問題は含めていなかった。

(3),(14),(18),(21),(22),(47)の6問が再調査の対象となった設問である(附録1では、再調査後の設問を載せている)。

なお、分析の対象としたインフォーマントA～Kと同時期に調査を行った注8で示すインフォーマントに関しても同様に追加調査を行った。福岡部の2名に関しては、(18)を修正したのちに調査を行っていたため、中年層の男性には5問の追加調査を行った。壮年層の男性に関しては追加調査を行っていない。

注 7) 調査に使用した設問数は、カモフラージュのための設問を外すと86問であり、このうち普通体に後接するものが70問である。しかし、タイの回答を意図した設問の内、自然にその項目のタイが用いられる文脈を作成した結果、1問中2か所に同様の用法のタイが表れてしまう可能性のあるものがある。それは、(33),(45),(46),(66)の4問である。これらの設問の場合、先にタイが出現し得る文を「前」、次にタイが出現し得る文を「後」として記す(ただし、附録2の回答結果一覧では・を用いて、同じ欄に記述している)。また、分析を行っていく中では、それぞれを分けて捉える。

また、体言に後接する設問として作成した(54)は、「野菜嫌い(やさいぎらい)」と言う言葉を名詞として文を作成したが、筆者の配慮が足らず、「野菜・嫌い(やさい・きらい)」ともとれる文章となってしまっており、「野菜きらい」と回答したインフォーマントの回答は意図通りでないと判断できるが、漢字表記の回答「野菜嫌い」に関しては、判断が出来ない。この設問は、語用論の意味として捉えると「[35] 予想との不一致・意外性」に当たり、タイを用いた回答がみられた項目であるが、(54)ではタイを用いた回答は無かった。この項目は、体言に後接する設問でも回答があり、より適切な設問を作れていれば、(54)でもタイの回答がみられた可能性はあった。これは、筆者のミスである。そのため、附録2で回答結果には示しているが、(54)は分析対象には含めていない。

つまり、普通体に接続するタイに関しては、用言に後接する設問は26問、体言に後



接する設問は (54) を除いた 25 問、計 51 問を分析対象としている。

注 8) 今回の調査では、分析対象としたインフォーマント A～K の他に、他地域若年層の女性 1 名と、同地域他年層の男性 2 名にも回答してもらった。3 名の情報は以下のとおりである。

地域・年	年齢	移住歴
他地域 若年層	23 歳	0～2 歳: 大分県佐伯市、2～4 歳: 佐賀県唐津市、4～6 歳: 兵庫県姫路市、6～10 歳: 福岡県北九州市小倉北区、10～23 歳: 福岡県福岡市西区横浜 3 丁目
福岡部 壮年層	33 歳	0～2 歳: 福岡市南区、2～3 歳: 東京都三鷹市、3～18 歳: 福岡市南区、18～20 歳: 東京都府中市、20～21 歳: イングランド、22～23 歳: 東京都国分寺市、23～25 歳: 福岡市南区、26 歳: 鹿児島県鹿児島市、26～27 歳: 大阪府池田市、27～29 歳: 兵庫県西宮市、29～30 歳: オーストラリア、30～32 歳: 大阪府豊中市、32～33 歳: 沖縄県八重山郡与那国町
福岡部 中年層	57 歳	0～13 歳: 長崎県大村市、13～15 歳: 佐賀県三田川町 (神崎郡) 現吉野ヶ里市、15～23 歳: 福岡市南区横手、23～27 歳: 大阪府大阪市、27～35 歳: 福岡市南区横手、35～42 歳: 福岡市南区大橋、42 歳～45 歳: 長崎県対馬市厳原町久田、45 歳～57 歳: 福岡市南区横手

他地域若年層の女性は、調査を行ったものの、言語形成期を他地域で長く過ごしており、福岡部のデータとして用いてよいか迷ったため、分析対象には含めなかった者である。福岡部壮年層の男性は、移住が多いものの、回答は問題なく福岡市方言を用いている。また、福岡部中年層の男性は、言語形成期を他地域で過ごしているものの、親族が福岡部在住であったということもあり、幼い頃から福岡市方言に接する機会が多く、言語形成期を除けば、福岡部に長く在住しているため、普段用いる言葉は福岡市方言である (長崎方言は話せない)。福岡部壮年層・中年層の男性は、福岡県内では福岡部以外に在在した経歴がないため、用いている福岡市方言は福岡部のものであると言えよう。分析の中で、この 3 名の調査結果を比較対象として用いる。

注 9) また、坪内 (2001) によると、本稿の「[20] 必要とされる事実のみを提示し、それ以外の部分には敢えて言及しない」にあたる「暫定的な応答」は、相手の質問された話し手が、一番言いたいことを言うのではなく、とりあえずの会話として、質問されたことに対する答えを示すものである。しかし、話し手は相手に質問の真意を問いたい状況にあり、相手の反応を要求する働きの上昇イントネーションは文末に必須である (非上昇では断言する形となり、「暫定的な応答」と解釈できなくなる) という。

しかし、タイのイントネーションの違いについては、本稿では深く触れない。

注 10) 筆者の出身地は、福岡県福岡市南区大橋である。移住歴は以下のとおりである。

0～6歳	福岡県福岡市南区大橋
6～8歳	長崎県対馬市厳原町久田
8～18歳	福岡県福岡市南区横手
18～21歳	熊本県熊本市東区長嶺南
21歳～現在	福岡県福岡市南区横手

注 11) Cは聞き手にとっての新規情報の「[16] 断言する・相手にうむを言わせない語気を持つ」ではタイを用いているが、聞き手にとっての既存情報の「[30] 断言する・相手にうむを言わせない語気を持つ」では用いていない。既存情報にタイを使うと、知っているはずのことを正当性をもって提示することになるため、より強い語気となる。既存の方は、悪いと聞き手が認めているのに、なお足りないと言わんばかりに強く述べるものであるため、避けた可能性は高い。

注 12) しかし、神部（1967）にて、肥筑地方以外の地域の、バイと併用されるワイという文末詞を比較した天草市牛深での記述の中で、「『バイ』は同輩以上にも用いられ」とある。また、坪内（1995）や平川（2008）の例文中にも、バイ・タイに丁寧体が後接する例があった。また、今回の調査で行ったアンケートで、福岡部壮年層の男性は丁寧体に後接する例で、ごく僅かだが、「言うことができる」と回答したものもあった。

注 13) 注 3 に記したように、今回の調査では、先行研究ではバイは提示しないとされる、「③ 聞き手が談話中に認識できている情報」を既存情報の設問に含めている。今回の調査でも、注 3 で②か③か判別しがたい中間的な設問として示した、(9) では福岡部の壮年層の男性、(14) では中年層の男性、(16) では両者がバイを用いていたが、はっきりと③と分かる (11),(12) ではバイは用いられていなかった。そのため、(11),(12) は、用いられ得るとされてきた項目の分析では、本来外すべき項目である。しかし、後日福岡部中年層の男性に、③に当たる (11),(12) も含めて、既存情報に設定していた設問でバイを用いることができるか尋ねたところ、(11),(12) でもバイを用いることができるということであった。そのため、本稿の分析では、③にあたる設問の (11),(12) も含めて分析をしている。

しかし、本来的には含むべきではない設問であるため、以下に (11),(12) の設問を除外した場合の表を載せておく。なお、本文での記述に反する結果とはなっていない。

<バイ> ③の設問(11), (12)を除いた場合

	代替形式	設問数	回答率
標準語形	ヨ、ダヨ	7	35%
	カ	0	0%
方言形	助詞無し	0	0%
	ヨ(トヨ、ンヨ)	4	20%
	ヤン	2	10%
	ヤロ(ウ)	0	0%
	ヤネ	1	5%
	体言止め	0	0%
その他	未分類	6	30%
	計	20	100%

注14) 本稿では、標準語形のヨと方言形のヨを分けたが、これらを同一のものとして考えると、以下のようになる。代替形式は<バイ><タイ>それぞれで、その形式を使用した回答が、回答者数の半数に達した設問が、少なくとも1問はあった形式を指す。設問数とは、<バイ><タイ>で各代替形式を使用した回答が半数を超えた設問数を指す。また、回答率は、各代替形式を使用した回答が、回答者数の半数に達した設問数が、<バイ><タイ>それぞれで占める割合を表す。

<バイ>

代替形式	設問数	回答率
ヨ	14	63.6%
ヤン	2	9.1%
ヤネ	1	4.5%
未分類	5	22.7%
計	22	100%

<タイ>

代替形式	設問数	回答率
ヨ	14	27.5%
ヤン	5	9.8%
ヤロ(ウ)	4	7.8%
ヤネ	3	5.9%
助詞無し(方言)	2	3.9%
体言止め	2	3.9%
カ	1	2.0%
未分類	20	39.2%
計	51	100%

このように、どちらもヨが最も用いられる形式となり、タイに関しては本文と結果が変わってしまう。同一のものとして捉えると、パイがいかにヨと置き換わりやすいかがより明白となる。タイは<タイ>全体の27.5%がヨと置き換わっていることになるが、それでも様々な語用論的意味が存在するため、ヨと置き換わった割合が64%のパイほどには置き換えはできないという結果は変わらない。

注3、注13で記したとおり、本文中のパイの分析に、「③聞き手が談話中に認識できている情報」を含めている。これを除いた場合の表も以下に載せておく。なお、その場合も本文中の記述に反しない結果となった。

<パイ>③の設問(11), (12)を除いた場合

代替形式	設問数	回答率
ヨ	13	65%
ヤン	2	10%
ヤネ	1	5%
未分類	4	20%
計	20	100%

注15) 体言止めは、標準語にも存在する用法である。福岡市福岡部では、標準語の断定の助動詞「ダ」の代わりに、断定の助動詞「ヤ」用いる。しかし「ヤ」は文で終止させる力はなく、その変わりを担ってきたのがパイやタイであった。また、その他の助詞をつけること他に、体言止めが行われてきた(平山(1997))。パイ・タイと同じく文を終止させる力のない「ヤ」の穴を埋める用法であるため、体言止めは伝統的な福岡市方言らしい用法とも言える。そのため、標準語でも用いられる用法ではあるものの、本稿では方言的なものとして捉えている。なお、今回の調査では、G,I,Kの回答に断定の助動詞「ヤ」で文を終止させているものもみられた(G:(59),(60)、I:(54),(61),(69),(70)、K:(54),(69))。

附録1

以下は、今回の調査に用いた設問である。本文で(小カッコ)が示す番号は、この設問番号に対応している。また、インフォーマントに書き換えてもらった標準語の部分全てに下線を引いているが、パイ・タイが用いられ得る該当箇所は二重下線を引いている。

1つの設問中に2か所タイが用いられうる(33),(45),(46),(66)に関しては、先にタイが用いられ得る箇所を「前」、次にタイが用いられ得る箇所を「後」とし、該当箇所を別に記述している。

普通体に後接する<パイ>

あなた「それ、多分好かれてるんだよ」

<聞き手を必要とする場合>

●聞き手にとっての新規情報

(4) (ろ)

[1] 話し手の情報獲得源：現実の事物

(友人の太郎と、今日学校を休んでいる友人の話をしながら)

(1) (い)

(すぐ近くのテーブルの上にスマートフォンが置いてあることに気づかず、探し続けている友人に対して)

太郎「そういえば確かに昨日、関節が痛いとか熱っぽいとか言いつたね〜。」

あなた「ああ、それは多分インフルエンザだよ」

友人「スマホどこやったっけ？」

あなた「そこに乗っているよ」

[3] 話し手の情報獲得源：記憶

(5) (い)

(2) (ろ)

(数学のテストの解答用紙が返され、採点に納得のいかない友人に尋ねられて)

(スマートフォンを置いたまま、席を外していた友人に対して)

あなた「さっきスマホが鳴っていたよ」

友人「ここ、先生の採点ミスと思うっちゃけど……ここの答え何？」

あなた「そこ答え 10.5 だよ。私丸もらってるし、ほら (答案用紙を見せる)」

(6) (ろ)

(毎年近隣で開催される花火大会の話を、最近引っ越してきたばかりの友人にしながら)

友人「それっていつあると？」

あなた「毎年8月15日だよ」

[2] 話し手の情報獲得源：推論の場合

(3) (い)

(まだ幼い従姉弟が自分にはばかりいじわるをしてくる、と悩んでいる友人の話を聞きながら)

[4] 話し手の情報獲得源：常識

※ (い) は未調査

(8) (ろ)

友人「いつもうちにばっかり、ちよっかもいけてくるんよね〜…なんでかいいな」

(福岡に初めて来た友人が、新天町に設置してある山笠の飾り山に驚いて)

友人 「何これ?!」

あなた 「山笠の飾り山だよ」

●聞き手にとっての既存情報

[5] 話し手の情報獲得源：現実の事物

(9) (い)

(先ほど、観てもいないテレビを付けたままにしていることを注意したはずなのに、まだ消していない家族に対して)

あなた 「もう！まだテレビがついているよ！」

(10) (ろ)

(夕飯が出来たので食べこくるように母に言われたにも関わらず、まだ動こうとしない弟に対して)

あなた 「さっき言われたでしょう！もうご飯だよ」

[6] 話し手の情報獲得源：推論の場

(11) (い)

(太郎が次郎と喧嘩をしたと聞き、その原因を聞きながら)

太郎 「悪いとは思ったけん、一応次郎に謝つたのに」

あなた 「いや、それはあなたが悪いよ」

(12) (ろ)

(朝、嫌なことがあったという友人の話聞きながら)

友人 「満員電車で、カーブで人に押されて隣の人にぶつかってさ、すごい嫌な顔されたっちゃん。仕方くない？一応謝ったけど、ずっと睨んできてさ……」

あなた 「それは不可抗力だよ」

[7] 話し手の情報獲得源：記憶

(13) (い)

(自分から言い出したにも関わらず、他人事のように振舞う次郎に対して)

太郎 「もっと真剣に考えりいよ」

あなた 「だいたい、次郎が言い出したんだよ」

(14) (ろ)

(大学の友人が一日に何度も同じことを言うのを聞いて)

友人 「ああ疲れた～はよ休みにならんかいな～…」

あなた 「それ、今日3回目だよ」

[8] 話し手の情報獲得源：常識

(7) (い)

(アイスを何本も食べる友人に対して)

あなた 「そんな冷たいものばかり食べていたら、お腹こわすよ」

(15) (い)

(病み上がりなのに、飲み会に出かけると言う妹に対して)

あなた 「あんまり羽目を外すとぶり返すよ」

(16) (ろ)

(幼稚な事を言い出す友人に呆れて)

あなた 「何を言っているの？私たちもう大学生だよ」

《聞き手を必要としない場合》

[9] 過去の状況の説明として独り言のように  
用いられる場面

(過去の状況で、相手が存在する場合)

(17) (い)

(友人に昨日の話をしながら)

あなた「昨日、ファミレスでテスト勉強しよう  
ということになったんだ、でも暑かつ  
たから、まずアイスなどを食べようと  
ということになったんだ、それでしばら  
く喋っていたらいつの間にかすぐく  
時間が過ぎていて、このままじゃ勉強  
する時間が無くなるよ！ってことにな  
って……」

(18) (ろ)

(あなたは友人の太郎・次郎と同じ学科に  
所属している。家族に太郎の話をしながら)

あなた「先週、必修の授業に太郎来てなくてさ。  
次郎は心配していたけれど、前にも一  
度、別の講義で寝坊してそのまま来な  
かったことがあったとも言ってたか  
ら、それはまたぶんズル休みだよってこ  
とになって、気にしていなかったんだ  
よ。でも今日になって聞いた話だと、  
なんか先週から入院してるらしくて  
さ……」

[10]過去の状況の説明として独り言のように  
用いられる場面

(過去の状況で、完全な独り言である場合)

(19) (い)

(友人に昨日の話をしながら)

あなた「昨日、友達と買い物に行ったんだ、そ  
うしたら帰りについでに飲みいこう  
ということになったんだ、つい飲みす  
ぎてしまったのだけれど、もう帰ろう  
って言い出した時に財布を見たらお  
金がギリギリで、これじゃあバスに乗  
れないじゃない！って思って……」

(20) (ろ)

(友人に、今朝の大変だった話をしながら)

あなた「今日、家を出た後で財布忘れたのに気  
が付いて、それで取りに帰ろうとも思  
ったんだけど、定期忘れてなかったか  
らいいやって思ってたなら、駅に着いた  
ところで、『定期の更新日って今日  
だ！』って気づいて……」

[11] 独り言のように用いられる場合

(21) (い)

(太郎が修学旅行の日に登校してきていない  
ことに気づいて)

あなた「あれ、一番張り切ったのに太郎お  
らんやん。どうしたと?」

次郎「昨日帰る時、熱があるとか暑いよった  
んよね。絶対行かって言いよったけ  
ど、インフルエンザになったってさ。」

あなた「ウイルスに負けたんだな。」

(22) (ろ)

(朝起きると天候が悪く、窓の外を見ながら)

あなた「うわあ、風強いなあ……学校行きたく  
ないなあ」

母「さっき警報出たけん今日休みてお知

らせきとったよ」

あなた「今日休みなんだな。行かないといけな  
いと思ってたけど。」

普通体に後接する<タイ>

《聞き手を必要とする場合》

●聞き手にとっての新規情報

基本的な意味機能

[12] 話し手の情報獲得源：現実の事物

(23) (い)

(ずっと家にいる母が遠くから窓を見て)

母 「なんか空暗くなってきたなあ、雨降り  
出すかなあ」

あなた「いや、さっきから雨降っているじゃな  
いか。」

(24) (ろ)

(お菓子を買ってくるように友人に頼まれて)

友人 「え？ おんなじもん2つも買ってきた  
と？」

あなた「いやいや、ほら、違う味だよ」

[13] 話し手の情報獲得源：推論の場

(25) (い)

(なぜ今日、授業中に難しい問題を当てら  
れて答えることが出来たのか友人に聞  
かれて、自分でも答えることが出来ると  
は思っておらず、たまたま勘で正解する  
ことが出来ていたとき)

あなた「今日は運がよかったんだよ」

(26) (ろ)

(昨日エアコンからゴキブリが出てきたが、

原因がわからないという友人の話を聞  
きながら)

友人 「昨日突然エアコンからゴキブリが出て  
きたとって！ 意味わからん！ どこ  
から入ったとかいな……」

あなた「エアコンからなら、室外機のホースだ  
よ」

[14] 話し手の情報獲得源：記憶

(27) (い)

(なぜ今日、授業中に難しい問題を当てら  
れて、答えることが出来たのか友人に聞  
かれて、昨日予習していた範囲だったた  
めに答えられたとき)

あなた「昨日ちゃんと予習したからだよ」

(28) (ろ)

(花子・太郎と遊ぶ約束をしていたが、定  
刻になっても太郎が来ないため、花子が  
心配して)

花子 「太郎、どうしたんやろ？ 事故にで  
もあつたとかいな……」

あなた「前にも寝坊してたから、どうせただの  
寝坊だよ」

[15] 話し手の情報獲得源：常識

(29) (い)

(福岡県外出身の友人の勘違いに腹を立てて)

友人 「ひよこって東京銘菓じゃないの？」

あなた「福岡銘菓に決まっているだろう！」

(30) (ろ)

(試験も終わったのに、今日は学校に行かなく



ていいのかと尋ねてきた母に対して)  
あなた「もう試験終わったから夏休みだよ」

派生する語用論的意味

[16] 断定・相手にうむを言わせない語気を持つ

(31) (い)

(怒っていることを分からせるために、わざと  
弟を無視している時に)  
弟 「何で無視する?」  
あなた「怒っているんだよ!」

(32) (ろ)

(家で必死に勉強しているところに兄弟がや  
ってきて)  
弟 「なんしょうと?」  
あなた「勉強だよ!」

[17] なだめる

(33) (い)

(コンサートチケットの販売が開始したこ  
とに気づかず、チケットを取りそこねて  
落ち込んでいる友人に対して)  
あなた「まあ今回は縁がなかったんだよ。また  
次があるよ」

※(33)前:「なかったんだよ」

(33)後:「あるよ」

(34) (ろ)

(パチンコで大負けしたと嘆く友人に対して)  
あなた「そういうこともあるのがギャンブルだ  
よ。次は上手くいくよ」

[18] 言いきかせる

(35) (い)

(駐車違反で罰金を払った友人が、不満そうに  
話しているのを聞いて)  
あなた「あなたの注意不足が原因なんだから、  
そりゃあ払わないといけないよ」

(36) (ろ)

(親から長男なのだから、弟たちの面倒を  
見るように言われ、最近遊べないと不満  
をもらす友人に対して)  
あなた「仕方ないよ。兄弟の面倒見るのも、一  
番上の仕事だよ」

[19] 突き放し・見放し

(37) (い)

(部屋を散らかしたまま、片づけようとしな  
い弟に対して)  
あなた「いつもそんなだから、母さんに怒られ  
るんだよ。知らないからね!」

(38) (ろ)

(いくつになっても我儘ばかり言う弟に対し  
て)  
あなた「そんなだから、いつまでたっても子供  
なんだよ。もうあんた言うことは聞か  
ないからね」

[20] 必要とされる事実のみを提示し、それ以  
外の部分には取返して言及しない

(39) (い)

(天気予報を観ようとテレビを3チャンネ  
ルに換えていたが、観終わった後もその

ままにしていたところに、父がやってきて

父 「なんで(テレビ)3チャンネルにしとると?なんか見よう?」

あなた「ああ、天気予報を見てたんだよ。換えていいよ」

(40) (ろ)

(何か用事があるらしい友人 A に、図書館の閉館時間を聞かれて)

友人 「図書館って何時まで開いとるっけ?」

あなた「夜9時までだよ。何かあるの?」

[21] 暫定的承認

(41) (い)

(友達とショッピングへ行き、友達がおもうとしている服についての意見を求められて)

あなた「まあ、色はいいよ」

(42) (ろ)

(近くのスーパーで牛乳を買ったら、同じ商品にも関わらず別のスーパーより高かったので、近くのスーパーはダメだという母に対して)

あなた「まあ、安いのはあっちのスーパーだよ。でも遠いよ」

[22] 乗り気ではないままの意志の変更

(43) (い)

(以前から興味を持っていた心霊スポットに行くことを友人たちに提案したところ、猛反対を受けた状況で、しぶしぶ諦

めて)

あなた「そんなに皆反対するなら、諦めるよ」

(44) (ろ)

(試験後に友人たちと答え合わせをしていた時、正解の自信があった問題に関して、友人たちと意見が異なり、間違いを認めろといわんばかりに熱弁をふるわれて)  
あなた「そんなに言うなら、そっちが正解だよ」

[23] 前提構成

(45) (い)

(今日あった出来事を家族に話そうとして)  
あなた「今日太郎と遊んでたんだ、そしたらまたま高校の頃の友達にあったんだ、それで……」

※(45)前:「遊んでたんだ」

(45)後:「あったんだ」

(46) (ろ)

(友人花子から聞いた、アルバイト先での話を家族にしようとして)  
あなた「花子のバイト先は塾なんだよ、それでその塾私たちの学校のすぐ近くなんだよ、それで……」

※(46)前:「塾なんだよ」

(46)後:「近くなんだよ」

[24] 単なる返答・単に話題を進行させる

(47) (い)

(床で工作をした後、使ったはさみをそのまま床に置いていたのを父親が見つけて)

父親 「うわっ、なんでこんなとこにカッターがあるの？」

あなた「ああ、さっきまで私が使っていたんだよ」

(48) (ろ)

(今テレビを観ていないのに、つけたままにしていることに母が気づいて)

母 「なんで観てないのにテレビつけっぱなしにしとると？」

あなた「ああ、今番組の途中休憩でニュースの時間なんだ」

[25] 思い出し

(49) (い)

(友達と話している途中で、用事があったことを思い出して)

あなた「あっ！そういえば、この後用事があったんだっ！」

(50) (ろ)

(友達と遊ぶ日を決めかけた時に、思い出して)

あなた「あっ！その日バイトだ！ダメだ！」

●聞き手ことでの既存情報

基本的な意味機能

[26] 話し手の情報獲得源：現実の事物

(51) (い)

(冷凍庫を見て、アイスが無い！と騒ぐ弟に)

弟 「アイス無いと?!」

あなた「見たら分かるでしょう。無いものは無いんだよ」

(52) (ろ)

(残り少ないジュースを弟のグラスに全部注ぎ終わって)

弟 「えーっ！これだけ？」

あなた「これで全部だよ」

[27] 話し手の情報獲得源：推論の場

(53) (い)

(今朝学校に遅刻してきた友人と話をしながら)

友人 「駅に着いてから英語の提出課題忘れたのに気づいてさあ……。いけるかなあ、と思って取りに戻ったんよ。そしたら……」

あなた「間に合わなかったんだね」

(54) (ろ)

(次郎から、太郎と食事をした時に、太郎は肉ばかり食べ、野菜は一切箸をつかなかったという話を聞いて)

次郎 「びっくりしたよ」

あなた「太郎ってそこまで野菜嫌いだったんだ」

[28] 話し手の情報獲得源：記憶

(55) (い)

(家に帰るなり、弟ががっかりした顔をして)

弟 「えーっ！漫画買ってきてくれてないの?!」

あなた「昨日自分で買ってくるっていったじゃない。忘れたの？」

(56) (ろ)

(昨日、今週で講義は最後だと話したにも

かかわらず、また尋ねてくる母に対して)

母 「講義はいつまで？」

あなた 「昨日言ったでしょう？今週で終わりだよ」

[29] 話し手の情報獲得源：常識

(57) (い)

(友人がたまたま見かけた小さな子供の話をしながら)

友人 「俺の目の前でその子が転んだんよ、凄  
い膝擦りむいててさ。泣くかな〜と思  
いよったら、やっぱり泣き出してさ」

あなた 「泣くよ、普通は」

(58) (ろ)

(食中毒で病院に運ばれたことがある友人に、  
その時の話をしてもらいながら)

友人 「焼肉食べに行ったっちゃけどさ、鶏肉  
見るからに生焼けでヤバそうやなっ  
て思ったけど、まあいいかと思って食  
べたら食中毒起こした」

あなた 「それは当たり前だよ」

派生する語用論的意味

[30] 断言する。相手にうむを言わせない語気  
を持つ。

(59) (い)

(どう考えても友人に非があり、簡単には  
許せないほど怒っている時に友人を責  
めて)

友人 「ごめん。私が悪かった」

あなた 「そうだよ、あんたが悪いんだよ」

(60) (ろ)

(友人のわがままの所為で取り返しのつかな  
い失敗をしてしまった時に友人を責めて)

友人 「私の所為だね、本当にごめん」

あなた 「そうだよ、あんたの所為だよ」

[31] その場の推論によって導出した知識につ  
いて、相手の賛同を期待する。

(61) (い)

(現在大学1年生の従姉弟が、小学2年生  
の頃からダンスを続けていると母から  
聞いて)

あなた 「小2からってことは、もう11年も続  
けてるんだ？」

(62) (ろ)

(久々に自分より年下の従姉弟と再会すると、  
もう14歳になったと聞いて)

あなた 「今14歳ってことは、前会った時8歳  
だったから……6年ぶりか!」

[32] 「当たり前である、前提である」という  
ことに気づく。

(63) (い)

(友人とあるレストランに行く日を決め  
たが、友人がその日を調べた所、丁度そ  
のレストランの定休日だった時)

友人 「19日にしようって言ったけど、水曜  
日だから定休日だよ」

あなた 「えっそれじゃあ行けないじゃない!」

(64) (ろ)

(明日ひどい悪天候であるという天気予報を

友人と見ながら)

友人 「明日雨酷いってことは、バスだけじゃ  
なくて電車も遅れたりするとかい  
な？」

あなた 「あっそれもそうだね」

[33] 気づかせる・思い出させる

(65) (い)

(福岡出身の歌手の話をしながら)

友人 「福岡出身の歌手って、YUI とか松田  
聖子の他に誰がおったっけ？」

あなた 「ほら、武田鉄也とか他にもいっぱい  
るじゃないか」

(66) (ろ)

(友達と遊んでいる時、同じサークルの後  
輩とすれ違ったのに、誰なのかわからな  
い友人に対して)

あなた 「ほら！新しくサークルに入った子だ  
よ！2年の田中さんだよ！」

※(66)前：「サークルに入った子だよ！」

(66)後：「田中さんだよ！」

《聞き手を必要としない場合》

[34] 思い出し

(67) (い)

(買い物しようとしてレジへ向かった時に、カバ  
ンに財布が無いのを見て)

あなた 「あっ！財布忘れてきたんだっ

(68) (ろ)

(一人で店へ出向いたものの、シャッターが降  
りており、定休日だったことを思い出して)

あなた 「あっ！そーいや今日木曜日だ！」

[35] 予想・想像していた事態との不一致・意  
外性

(69) (い)

(普段絵は描かないと言っていたので、あ  
まり上手くないと思っていた友人が、思  
いの外上手な絵が描けているのを見て)

あなた 「おお！絵描けるんだ！すごいじゃな  
い！」

(70) (ろ)

(高校野球の決勝戦で、勝つと思っていた  
方の高校が優勝したと聞いて)

あなた 「勝ったの佐賀北高校なんだ！」

丁寧体に後接する<ハイ>

[36] 「です」

(71) (い)

(叔父にアルバイトの話をしながら)

叔父 「居酒屋でバイトって大変じゃなかと？」

あなた 「でもなかなか楽しいですよ」

(72) (ろ)

(店でラーメンを食べている時に、隣の客に声  
を掛けられて)

隣の客 「すみません、高菜ってどこにあります  
か？」

あなた 「ああ、これですよ」

[37] 「でした」

(73) (い)

(伯母の家にお邪魔した時に、話の合間にふと  
思い出して)

あなた「そういえば、お土産持ってきてたんで  
した!」

※「バイ」の出現予想位置は「でした」の後。  
「持ってきたとですばい!」のようにテ  
ンスは「です」ではなく、その前の用言に表  
れるが、感情がこもると「でしたばい」と言  
える場合もあると考え、設定している(タイ  
に関しても同様である)。

(74) (ろ)

(親戚の叔父さんに学校の話をしていて)

叔父「テストでいい成績はとれたね?」

あなた「はい、90点でしたよ」

[38]「ます」

(75) (は)

(学校で、知らない人にトイレはどこにあるの  
かを尋ねられて)

あなた「トイレは、この廊下の奥を右に曲がっ  
た先にありますよ」

(76) (に)

(今は大学に行っているだけなのか、と叔父に  
聞かれて)

叔父「今行っとるのは大学だけね?」

あなた「アルバイトもしていますよ」

[39]「ました」

(77) (は)

(友達と喧嘩しことを先輩に話しながら)

先輩「その子よくそんな酷いこと言えるね!

その時何も相手に言わなかったん?」

あなた「さすがに言いましたよ」

(78) (に)

(親戚の叔父さんに、大学ではちゃんと勉強し  
ていたのか、と聞かれて)

あなた「ばっちり、していましたよ」

丁寧体には後接する<タイ>

[40]「です」

(79) (い)

(酷いことをされて、友人と喧嘩したという先  
輩の話聞きながら)

あなた「そんなこと、誰でも許せないですよ」

(80) (ろ)

(福岡県出身の先輩に、太宰府の名物ってなん  
だっけ?と言われて)

あなた「そりゃあ太宰府といったら梅ヶ餅です  
よ!」

[41]「でした」

(81) (い)

(高校の先輩と話している途中で、用事があっ  
たことを思い出して)

あなた「あつ!そういえば、この後用事あった  
んでした!」

※「タイ」の出現予想位置は「でした」の後。

(82) (ろ)

(先日開かれた花火大会に行けなかった先輩  
に、その時の話をしながら)

先輩「こないだの花火は、間近で見たら、や

「っばりすごかった？」  
あなた「そりゃあもう立派なものでしたよ」

[42] 「ます」

(84) (は)

(飲み会の席で、満腹になり、食べるのをやめていたところ、先輩に文句を言われて)

先輩 「それ、お前が頼んだのに、お前が残したら俺が片づけないかんくなるやろ！」

あなた「そんなに言うなら全部食べますよ!」

(84) (に)

(小さい頃、よく一緒に遊んでいた近所の子供の母親に久々に会って)

近所の子供の母親

「もう長いこと会ってらんけん、もう顔も忘れたろう？」

あなた「いや、あれだけ遊んでましたから。」

今でも時々どうしてるかな、と思  
っていますよ」

[43] 「ました」

(85) (は)

(先輩にアルバイトの掛け持ちは大変だったのではないかと言われて)

あなた「そりゃあ、無理もしてきましたよ」

(86) (に)

(叔父に一人暮らしをしているという話をしながら)

叔父 「親元離れて、淋しくなかったとね？」

あなた「始めのうちはよく泣いていましたよ」

附録2 調査結果一覧

普通体に後接する<パイ>

設問	接続	聞き手	項目	前接するもの	A	B	C	D
1	(い)	新規	[1]現実の事物	乗っている	あるよ	●よ	●やん	●よ
2	(ろ)			10.5	だね	だよ	やったよ	だよ
3	(い)		[2]推論の場	好かれている	んやろ	んやない	●っちゃない?	●んやない?
4	(ろ)			インフルエンザ	じゃない?	やない?	やない?	やね
5	(い)		[3]記憶	鳴っていた	よ	●よ	●よ	●よ
6	(ろ)			毎年8月15日	やね	だよ	*	だよ
8	(ろ)			[4]常識	山笠の飾り山	だね	だよ	*
9	(い)		既存	[5]現実の事物	ついている	*	よ!	●やん!
10	(ろ)	ご飯			だよ	だよ	ってば!!	×
11	(い)	[6]推論の場		悪い	よ	よ	やろ	んやない?
12	(ろ)			不可抗力	*	やない	やんねえ!	やろ
13	(い)	[7]記憶		言い出した	やん	っちゃろ	とよ	んやろ?!
14	(ろ)			3回目	やん	やろ	やん	やん
17	(い)	[8]常識		壊す	よ	よ	よ	よ?
15	(い)			ふり返す	*	よ	けんね	よ
16	(ろ)		大学生	だよ	よ	とよ	やん	
17	(い)		不必要	[9]過去独り言	無くなる	よ!	よ!	やん!
18	(ろ)	ズル休み			やろう	だよ	ってことやん	やない?
19	(い)	[10]過去独り言		乗れない	な	●けんね!	●やんって!	●やん!
20	(ろ)			今日	だ	だ!	更新日やん!	やん!
21	(い)	[11]独り言		負けた	んやろ	んやね	ったいね	っちゃろうね～
22	(ろ)			休み	なんか	なんだな	ったいね	なんやね

(表記について)

パイが接続するものが

- ・標準語形である場合は、文末詞のみを記述  
例:「乗っているよ」(接続するもの:乗っている)→よ
- ・標準語形であり、文末詞が無い場合…◎  
例:「乗れない」(接続するもの:乗れない)→◎
- ・方言形になっており、文末詞がある場合は、●+文末詞  
例:「乗っとるやん」(接続するもの:乗っている)→●やん
- ・方言形になっており、文末詞が無い場合…●
- ・名詞であり、文末詞が無い場合…×
- ・回答無し、もしくは意図にそぐわない回答…\*



E	F	G	H	I	J	K
●よ	あるやん	●よ	よ	よ	●よ	あるよ
だよ	×	だよ	だよ	よ	だよ	だよ
●よ	なつかれとーとよ!	●んよ	んだよ	●んやない?	●とよ	●よ
やろ	やない?	よ	じゃね	やね	やない	やない?
●よ	着とつたよー	●よ	よ	よ	●よ	●よ
だよ	だよー	やし	よ	やね	だよ	よ
だよ	×!	よ	だよ	よ	よ	だよ
●よ!	●けど	●よ!	じゃん!	●やん	●よ!	●よ
よ!	つてよー	よ	だよ	だよ	よ	だよ
やろ	*	やろ	よ	よ	よ	つちやない
やろ	*	やろ	だね	やん	*	*
とよ	*	んよ	んだよ	んよ	とよ	んよ
やん	やけん	よ	だよ	やろ	よ	だよ
よ	で	よ	よ	よ	よ	よ
よ	*	よ	よ	また体調崩すよ	*	よ
よ?	やけんね	よ	だよ	よ	よ	だよ
よ!	*	●よ!	じゃん	やろ	よ!	*
だよ	*	だよ	だろう	だろ	やない	やない
●やん!	●やーん	●やん!	◎!	●やん!	●やん	●やん
やん!	やん	やん!	だ!	やん	やん	*
んやね	つちやない?	んやね	んだろう	んやない	つちやね	つちやない
つちやね	つたいね	なんやね	なんだね	なんやね	つちやね	なんやね

・パイが用いられた回答 (パイの使用を意図しなかった設問での回答も含めてマークしている)

…太字

・タイが用いられた回答 (タイの使用を意図しなかった設問での回答も含めてマークしている)

…色づけ

※「接続するもの」の欄で表示した、設問で用いられた語と違っていても、文脈上不自然でなく、(い) (ろ) が守れている場合は、その語を記し、本稿での分析に含めている。また、回答が標準語形なのか方言形なのかを示すことを目的とし、上記のような表記を行っている。そのため、「接続するもの」が用言の場合、時制の違いは明記していない。また、“?”や“!”は回答に書き込まれたまま記す。

この表記は次の「普通体に後接する<タイ>」においても同様である。

普通体に接続する<タイ>

設問	接続聞き手	項目	前接するもの	A	B	C	D	
23	(い)	[12]現実の事物	降っている	よ	じゃないか	●やんか	やん	
24	(ろ)		違う味	だから	だよ	やけんね	やけん	
25	(い)		[13]推論の場	良かった	ね	んだよ	つちやろうね	んやね
26	(ろ)			ホース	じゃない?	からやろ	からやけん	だよ
27	(い)		[14]記憶	予習した	からだよ	けんね	けんね	けんね
28	(ろ)	寝坊		だよ	やろ	やろ	やろ	
29	(い)	[15]常識	決まっている	*	●やろ	●やん	●やろ!	
30	(ろ)		夏休み	だよ	だよ	やけん	×	
31	(い)	[16]断定	怒っている	んだよ!	んだよ!	●つたい!	●と!	
32	(ろ)		勉強	だよ!	だよ!	×	×	
33	(い)	[17]なだめる	なかった・ある	*・よ	つちやろ・けん	ちやろね・やろ	つちやない?・って	
34	(ろ)		ギャンブル	だよ	だよ	やけんね~	やろ	
35	(い)	[18]言いかせる	いけない	*	●やろ	●やろね~	●やろ	
36	(ろ)		仕事	だよ	やけん	やけん	やない?	
37	(い)	[19]突き・見放し	怒られる	*	んだよ	つたい	つちやろ	
38	(ろ)		子供	なんだよ	なんだよ	つちやろ	つたい	
39	(い)	[20]必要のみ	見た	だけだよ	んだよ	●	●	
40	(ろ)		夜9時	やね	までよ	やけど	までだよ	
41	(い)	[21]暫定的承認	いい	ね	やろ	つちやない?	んやない?	
42	(ろ)		スーパー	だけど	やろ	*	やね~	
43	(い)	[22]乗り気でない	諦める	よ	よ	●	◎	
44	(ろ)		正解	だよ	だよ	つちやろうね	やない	
45	(い)	[23]前提構成	遊んでた・会った	*	んだ・んだ	*・つたい?	*・んよね	
46	(ろ)		塾・近く	*	よ・なんだよ	*・でからさ~	つちやけど・なんよね	
47	(い)	[24]単なる返答	使っていた	んだよ	●よ	●やつ	●けん	
48	(ろ)		ニュースの時間	*	×	*	やけん	
49	(い)	[25]思い出し	あった	んだった	んだった!	んやった!	◎!	
50	(ろ)		バイト	だ	だ!	やけん	やん!	
51	(い)	[26]現実の事物	無い	んだよ	の	◎!	◎!	
52	(ろ)		全部	だよ	だよ	って	×	
53	(い)	[27]推論の場	間に合わなかった	のね	んちやんね	●つたいね	んやね	
54	(ろ)		野菜嫌い	だつたんだ	やつたつちやんね	やつたんやね	やつたど?!	
55	(い)	[28]記憶	いっていた	じゃん	やない	●やん?	●やん	
56	(ろ)		終わり	だよ	だよ	*	×	
57	(い)	[29]常識	泣く	でしょ	やろ	やろね~	やろ	
58	(ろ)		当たり前	だよ	やろ	やろ	やろ~	
59	(い)	[30]断言	悪い	よ	んだよ	◎	◎	
60	(ろ)		あんたの所為	だよ	だよ	や~ん	やろ	
61	(い)	[31]推→賛同期待	続けてる	してるの?	の?	●つたいね~	●ど?	
62	(ろ)		6年ぶり	か!	か!	やね!	やね!?	
63	(い)	[32]当然と気づく	行けない	じゃん	じゃない!	●やん!	●やん!	
64	(ろ)		そう	やね	やね	やんね!	かもしれんね	
65	(い)	[33]気づか・思い出さ	いる	よ	じゃん	●やん	●やん?	
66	(ろ)		入った子・田中さん	*・だよ	よ!・やろ!	×!・×!	×!・×!	
67	(い)	[34]思い出し	忘れてきた	*	んだつた	んやつた	んやつた	
68	(ろ)		木曜日	だつた	だ!	やつた!	やん!	
69	(い)	[35]予想との不一致	描ける	*	んだ!	つたいね!	んやね!	
70	(ろ)		佐賀北高校	*	なんだ!?	なんやね!	なん!?	

E	F	G	H	I	J	K
●やん?	●よ	●やんか	●やん	やん	●やん	●やん
x	*	やし	よ	やろ	よ	よ
とよ	*	んよ	んだよ	だけやろ	とよ	んよ
やろ	*	よ	からだよ	やない?	だよ	やない?
●けんね	ちやーん	けん	からよ	からかな?	けん	けん
やろ	*	やし	やろ	やろ	やない	よ
●やろ	*	●やろ!	でしよ	やろ!	●やん	*
だよ	よー	よ	だよ	よ	よ	だよ
●と!	*	●んやし!	の	んやけど!	●けんよ	●と
*	*	やし!	x	x!	だよ!	x
んよ・けん	*	んよ・けん	んだよ・さ	ってことでよ	とよ・さ	んだよ・よ
やけんね	*	よ	だよ	じゃん	やないと	だよ
●やろ	*	●よ	よ	●やろ	●よ	●よ
やろ	*	よ	だよ	やろ	よ	やけんね
っちゃん	*	んよ	んだよ	とよ	とよ	んよ
っちゃん	*	なんやし	なんだよ	なんよ	とよ	なんよ
●と	*	●んよ	んだよ	んやけど…	●	●
だよ	やない?	までよ	までだよ	までよ	までだよ	*
よ	*	よ	よ	やん	っちゃんない	よ
*	*	だよ	やね	やね	やね	*
よ	*	し	よ	よ	◎	よ
やろ	*	やろ	だろ	やろ	やない	やない?
*・◎	*・さー!	●んよ・んよ	んだけど・のよ	んだけど・さ	*・とって	*・◎
で・*	*	なんよ・なんよ	なんだよ・で	なんよ・なんよね	なんだよ・*	*
●とよ	●っちゃん	●んよ	●んよ	●んよ	●とよ	●けんよ
っちゃん	*	なんよ	なの	なんよ	とよ	やけん
っちゃん!	んやった!	んやった!	んやった	んやった	んやった	んやった
やん!	やった	やん!	だ!	やん	やん!	やった!
と	*	◎	よ	の!	よ	*
だよ	*	よ	だよ	よ	よ	だよ
●んやね	*	んやろ	んやね	んやね	●っちゃんね	●んよね
やったんやね	*	やったんね	だっただ	やったんや	なんだね	やったんや
●やん	●やん	●やん	じゃん	やん	やん	●やん
だよ	x	やし	だよ	よ	だよ	x
やろ	くよな一	わ	よ	やろ	けん	よ
やろ	*	やろ	だよ	やろ	やん	だよ
っちゃんね	*	んや	んよ	んよ	とよ	んだだよ
やけんね	*	や!	だよ	やん	だよ	だよ
●んやね?	しよるったい	●んやね	んだ	んや	●ったい!	●ったい!
か!	x?	か!	か	か!	か!	か!
●やん!	*	●やんか!	じゃんか!!	●やん	●やん	●やん
やね	やない?	やね	やね	やね	やね	やね
●やん	*	●やんか	じゃんか	●やん	●よ	●やん
だよ!・だよ!	*・やない?	よ!・よ!	x・x	x・やん	だよ!・だよ	x!・x!
っちゃん!	んでした	んやった	んだった	んやった	んやった	●んやった
やん!	*	やん!	やん!	やん	やん!	やん!
やん!	*	んやん!	んだ!	んや	んだ	んや!
なん!?	*	なん!?	なんだ	なんや	ったい!?	なん!?

丁寧体の後接する<バイ><タイ>

設問	接続	バイ/タイ	原文	A	B	C
71	(い)	バイ	楽しいですよ	*	◎	◎
72	(ろ)		これですよ	◎	◎	◎
73	(い)		持ってきてたんですした	*	◎	るんでした
74	(ろ)		90点でしたよ	◎	よ	◎
75	(は)		ありますよ	◎	◎	◎
76	(に)		していますよ	ますよ	◎	◎
77	(は)		言いましたよ	言い返しましたよ	◎	言ってしまいました
78	(に)		していましたよ	ましたよ	◎	ましたよ
79	(い)	タイ	許せないですよ	許さないですよ	◎	許さんですよね
80	(ろ)		梅ヶ枝餅ですよ	◎	◎	*
81	(い)		あったんですした	◎	◎	あるんですした
82	(ろ)		立派なものでしたよ	*	◎	*
83	(は)		食べますよ	◎	◎	食べます！
84	(に)		思っていますよ	ますよ	◎	思ったりしてましたよ
85	(は)		してきましたよ	ましたよ	◎	してましたよ
86	(に)		泣いていましたよ	ましたよ	おりましたよ	ましたね～

(表記について)

丁寧体の後接する<バイ><タイ>では、インフォーマントに書き換えてもらう前の、標準語形のまま回答されているものが多かったため、普通体に接続する<バイ><タイ>とは表示の仕方が異なり、以下のようになっている。

- ・原文…インフォーマントに書き換えてもらう前の文の、バイ・タイが接続し得る該当箇所
- ・◎…原文通りの標準語形回答
- ・\*…丁寧体での回答になっていなかった回答
- ・その他の記述…原文と異なる箇所を表示している。部分的に途中から原文と異なる場合は、異なりだした部分から表示し、全く異なる場合や、最後の助詞のみ無い場合は、全て記述している

原文と部分的に異なる場合

例：「持ってきてるんですした」(原文：持ってきてたんですした) → るんですした

原文と全く異なる場合

例：「あるんですした」(原文：あったんですした) → あるんですした

最後の助詞のみ無い場合

例：「食べます！」(原文：食べますよ) → 食べます！

D	E	F	G	H	I	J	K
◎	◎	*	◎	◎	◎	◎	◎
◎	◎	*	◎	◎	◎	◎	◎
*	◎	*	◎	*	*	*	◎
◎	よ	*	よ	◎	よ	よ	よ
◎	◎	◎	◎	◎	◎	*	◎
*	ますよ	*	ますよ	◎	やってますよ	*	してます
ました	◎	◎	◎	言いました	◎	◎	◎
ました	◎	*	やっていましたよ	◎	やってみましたよ	ましたよ	ましたよ
*	◎	*	*	◎	許せないっすよ	◎	◎
◎	◎	*	◎	*	*	◎	◎
あるんです	◎	*	◎	◎	◎	◎	◎
*	◎	*	◎	◎	*	*	*
食べます!	◎	*	◎	食べます	◎	◎	◎
います	ますよ	*	ますよ	思いますよ	ますよ	◎	◎
ね～	◎	*	◎	◎	◎	しましたよ	◎
ましたね～	ましたよ	*	ましたよ	*	いましたね	*	◎

他地域若年層、福岡部壮年層・中年層の調査結果一覧

普通体に後接する<パイ>

設問	接続	聞き手	項目	前接するもの
1	(い)	新規	[1]現実の事物	のっている
2	(ろ)			10.5
3	(い)		[2]推論の場	好かれている
4	(ろ)			インフルエンザ
5	(い)		[3]記憶	鳴っていた
6	(ろ)			毎年8月15日
8	(ろ)		[4]常識	山笠の飾り山
9	(い)		既存	[5]現実の事物
10	(ろ)	もうご飯		
11	(い)	[6]推論の場		悪い
12	(ろ)			不可抗力
13	(い)	[7]記憶		言い出した
14	(ろ)			3回目
7	(い)	[8]常識		壊す
15	(い)			ぶり返す
16	(ろ)		もう大学生	
17	(い)	不必要	[9]過去独り言	無くなる
18	(ろ)			ズル休み
19	(い)		[10]過去独り言	乗れない
20	(ろ)			今日
21	(い)		[11]独り言	負けた
22	(ろ)			休み

(表記について)

先に提示した、A~Kのインフォーマントの普通体に後接する<パイ><タイ>それぞれの表と同じ表記である。

以下の点のみ異なっている。

- ・(福岡部壮年層の男性のみ) 調査を行っていない設問・no data
- ・(い) (ろ) が守れていない設問で、非文表示になっているものでも、パイ・タイの回答がみられた場合は\*の後に記述している
- ・設問の非該当箇所でのパイ・タイが用いられた場合はそのことを明記している

以上は次の普通体に後接する<タイ>の表においても同様である。

福岡部中年層	他地域若年層	福岡部壮年層
あるやろう	●よ	あるばい
たい	よ	×
●けんやろ	●んよ	no data
ばい、よ	やん	やない
●よ	●よ	●よ
やったろうや	よ	よ
たい(ばい)	よ	よ
●やない!	●やん!	●ばい
て!	よ	よ
やろう	やろ	●ろう
たい	*	やね
とよ	んやん	つちやろーが
ばい	よ	no data
よ、腹痛くなるばい、たれかぶるばい	よ	ばい
よけいわるなるばい	また具合悪くなるよ	ばい
やろう	よ	ばい
しまうけん	やん!	●ばい
やろう	よ	やろ
●やん!	●やん!	●ばい
やった	今日更新やん!	やった
とやろうね	つちやない?	no data
*になったったい	なんやね	no data

普通体に後接する<タイ>

[23] ~ [50]

設問	接続	聞き手	項目	前接するもの	
23	(い)	新規	[12]現実の事物	降っている	
24	(ろ)			違う味	
25	(い)		[13]推論の場	良かった	
26	(ろ)			ホース	
27	(い)		[14]記憶	予習した	
28	(ろ)			寝坊	
29	(い)		[15]常識	決まっている	
30	(ろ)			夏休み	
31	(い)		新派生	[16]断定	怒っている
32	(ろ)				勉強
33	(い)	[17]なだめる		なかった・ある	
34	(ろ)			ギャンブル	
35	(い)	[18]言いきかせる		いけない	
36	(ろ)			仕事	
37	(い)	[19]突き・見放し		怒られる	
38	(ろ)			子供	
39	(い)	[20]必要のみ		見てた	
40	(ろ)			夜9時	
41	(い)	[21]暫定的承認		色はいい	
42	(ろ)			スーパー	
43	(い)	[22]乗り気でない		諦める	
44	(ろ)			正解	
45	(い)	[23]前提構成		遊んでた・会った	
46	(ろ)			塾・近く	
47	(い)	[24]単なる返答		使っていた	
48	(ろ)			ニュースの時間	
49	(い)	[25]思い出し		用事があった	
50	(ろ)			バイト	



福岡部中年層	他地域若年層	福岡部壮年層
●よ、●ばい	●やん	●よ
やろ!、たい!	やん	ばい
たい	とって	とよ
やろ、ばい	*	室外機やろね
●けん	けんね	けんたい
やろ	やろ	やろ
●たい	●やん!	●やん
よ、たい	よ	よ
●けんたい	●ったい!	●とよ
たい!、やろが!	×!	×
とやろろ・たい、やろ	んよ・やん	とよ・くさ
やろが	よ	やけんね
●よ	●よ	●ね
*	やん	よ
ったい (非該当箇所: 知らんばい!)	んよ	とよ
* 子供で言われるったい	なんよ	なんよ
●よ	●つちゃん	●よ
までたい	までよ	までばい
●ろうね、●ね	やん	つちやない
やろ	やね	やね
けん	わ	×
たい	つちやない	やろ
*・●ったい	*・んよ	●ったいと
*・* 近くにあるったい	ったい・*	でからさ・なんよね
●ったい	●んよ	no data
たい	つちゃん	×
ったい!	あるんやった!	×
やった! (非該当箇所: ダメばい!)	やん!	や

[51] ~ [70]

51	(い)	既存	[26] 現実の事物	無い
52	(ろ)			全部
53	(い)		[27] 推論の場	間に合わなかった
54	(ろ)			野菜嫌い
55	(い)		[28] 記憶	いていた
56	(ろ)			終わり
57	(い)		[29] 常識	泣く
58	(ろ)			当たり前
59	(い)	既派生	[30] 断言	悪い
60	(ろ)			あなたの所為
61	(い)		[31] 推→賛同期待	続けてる
62	(ろ)			6年ぶり
63	(い)		[32] 当然と気づく	行けない
64	(ろ)			そう
65	(い)		[33] 気づか・思い出さ	いる
66	(ろ)			入った子・田中さん
67	(い)	不必要	[34] 思い出し	忘れてきた
68	(ろ)			木曜日
69	(い)		[35] 予想との不一致	描ける
70	(ろ)	佐賀北高校		

丁寧体に後接する<バイ><タイ>

設問	接続	バイ/タイ	原文
71	(い)	バイ	楽しいですよ
72	(ろ)		これですよ
73	(い)		持ってきてたんです
74	(ろ)		90点でした
75	(は)		ありますよ
76	(に)		していますよ
77	(は)		言いましたよ
78	(に)		していましたよ
79	(い)	タイ	許せないですよ
80	(ろ)		梅ヶ枝餅ですよ
81	(い)		あったんです
82	(ろ)		立派なものでしたよ
83	(は)		食べますよ
84	(に)		思っていますよ
85	(は)		してきましたよ
86	(に)		泣いていましたよ

表記は、A~Kのインフォーマントの丁寧体に後接する<バイ><タイ>それぞれの表と同じである。

ったい	よ	×
たい	よ	やね
●ちやね・●とか	●ったい	●っちやね
やったったい	やったんや	*野菜好かんったい
●やろうが	●やん	●やん
よ	よ	×
やろ	よ	●ね
*	やろ	やね
ったい	んよ	ったい
たい	よ	やね
●ったいね?	とうと?	●ったいね
か!	か!	か
●たい!	●やん!	●やん
やね	よね	ね
●やない	●やん	●やん
たい!・よ!	よ!・×!	たいたい
×	んやった	●ったい
やった	やん!	や
ったい!	ったい!	っちやね
か!?	なん!?	×?

福岡部中年層	他地域若年層	福岡部壮年層
●ですよ	*	*
◎	◎	◎
持ってきてました	*	*
◎	*	*
◎	◎	◎
●ます	*	*
●ですよ(=言うたですよ)	◎	◎
◎	*	*
●ですよ(●でしょう)	◎	◎
ですね!	◎!	◎
ありました	◎	ありました
立派な花火やったです	◎	立派でしたよ
◎	◎	◎
●ます(思いますよ)	◎	* 思うばい
したよ(してきたよ)	◎	*
●ました	*	*

## 謝辞

本稿は著者の卒業論文（熊本県立大学文学部）に加筆修正したものである。執筆にあたり、担当教員の小川晋史講師には多くの示唆やご助言を賜り、丁寧なご指導をしていただきました。ここに、感謝の意を表します。本当にありがとうございました。

また、お忙しい中、調査にご協力いただいた14名の方々に、心からお礼を申し上げます。

## 【参考文献】

- 安達太郎（1991）「いわゆる「確認要求の疑問表現」について」『日本学報』10, p.45-59.
- 岡野信子（1991）「九州方言の各県別解説 福岡」九州方言学会編『九州方言の基礎的研究 改訂版 p.208 風間書房.
- 神部宏泰（1967）「九州方言における文末詞「バイ」「タイ」について」『熊本女子大國語国文学論文集』5, p.1-13.
- 坪内佐智世（1995）「福岡市博多方言の不変化詞タイ・バイの意味記述」『九大言語学研究室報告』16, p.75-103.
- 坪内佐智世（2001）「福岡市博多方言の終助詞「タイ」の多様性について」『福岡教育大学紀要 第1分冊』50, p.47-58.
- 坪内佐智世（1995）「福岡市博多方言における「だ」相当助詞に現れるモダリティ」『KANSAI LINGUISTIC SOCIETY』15, p.25-35 関西言語学会.
- 田野村忠温（1988）「否定疑問文小考」『国語学』152, p.110-123 国語学会.
- 蓮沼昭子（1995）「対話における確認行為「だろう」「じゃないか」「よね」の確認用法」仁田義雄『複文の研究（下）』p.389-419 くろしお出版.
- 平川公子（2008）「福岡市方言における文末詞バイとタイ」『阪大社会言語学研究ノート』8, p.116-131.
- 平塚雄亮（2009）「福岡市若年層方言のデハナイ（カ）相当形式に見られる方言接触」『待兼山論叢』43, p. 55-71 大阪大学大学院文学研究科.
- 平山輝男（1997）『日本のことばシリーズ 40 福岡県のことば』明治書院.
- 藤原与一（1985）『方言文末詞く文末助詞の研究』（中）春陽堂書店.
- 益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語の文法—改訂版—』くろしお出版.
- 宮崎和人（2005）『現代日本語の疑問表現 疑いと確認要求』ひつじ書房.
- 森田良行（2007）『助詞・助動詞の辞典』東京堂出版.